

平成30年度 日臨技九州支部 医学検査学会 (第53回)

かなう

協
協

～多職種との連携と
他職種との協働～

2018年

会期

10月6日 土・7日 日

会場

別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza
大分県別府市山の手町12-1 TEL 0977-26-7111

学 会 長 野中 恵美 (大分臨床検査技師専門学校)

実行委員長 疋田 直 (南海医療センター)

顧 問 佐藤 元恭 (三愛総合健診センター)

事務局

大分赤十字病院 検査部内 (担当 山下広光)

〒870-0033 大分県大分市千代町3丁目2-37 TEL 090-3601-8830

URL http://www.oita-amt.jp/53kyushu/

E-mail 53kyushu-jimukyoku@oita-amt.jp

主 催

(一社)日本臨床衛生検査技師会

担 当

(公社)大分県臨床検査技師会

平成30年度
日臨技九州支部医学検査学会（第53回）
プログラム 目次

平成30年度日臨技九州支部医学検査学会の開催にあたって	1
学会長挨拶	2
1. 会場への交通のご案内	3
2. 会場案内図	4
3. 平成30年度 学会日程表	6
4. 発表データの作成・受付について	8
5. 学会へ参加される皆様へ	10
6. 発表者・座長・司会者へのご案内	11
7. ご案内	12
8. 関連行事	14
9. 各県別一般演題数及び座長数	15
10. 学会開催地・学会長一覧	16
11. 展示会場案内図	17
12. 特別企画一覧	18
13. 部門企画一覧	21
14. ランチョンセミナー一覧	23
15. 抄録目次 一般演題	24
16. 協力企業一覧	29
17. 学会実行委員会一覧	30
18. 抄録	
教育講演	31
文化講演	33
日臨技企画Ⅰ	34
各社広告	36



平成30年度日臨技九州支部 医学検査学会の開催にあたって

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事 会長 宮島 喜文

本学会が、公益社団法人大分県臨床検査技師会の佐藤 元恭会長の下で、メインテーマ「協 ～多職種との連携と他職種との協働～」として盛会に開催されますことを会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

また、平素より一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す）の活動に、ご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、日臨技の活動につきましては、「日臨技を新生させ、未来を拓く」を目標に掲げ、様々な事業に取り組んで参りました。今年5月には静岡県浜松市で第67回日本医学検査学会を山口浩司学会長の下開催し、4,300人程の参加者をいただき成功裏に終了することができました。改めて、開催県はもとより、会員を始め、関係各位のご協力に感謝申し上げます。

日臨技主催支部学会は、学術活動の一環として、会員の資質向上を図ることを目的として、担当県の実行委員会が特色ある企画と運営で多くの会員の皆様が期待されているところです。また、数年前から日臨技の当面の課題をテーマとする日臨技企画などを通じて、私たちを取り巻く最新の医療情勢を踏まえた討議の場として重要な役割を果たしているものでもあります。

急速に進む技術革新は近い将来、臨床検査の分野でも大きく変貌する要素を含んでいます。例えば、インターネットや人工知能、そしてロボット開発について国を挙げて取り組んでいます。臨床検査へのAI（人工知能）の活用により、精度管理の判断や生理検査の判読などがAIやロボットに置き換わるのではと考えていますが、臨床検査技師の仕事として、検査説明・相談、採血、総合判断等が残ると思いますが、今後はオペレーターからコーディネーターへの転換も必要ではないかと思っています。

今後も国民皆保険制度を基本とした、持続可能な社会保障制度を維持するために、国は医療法規定の医療計画で都道府県毎に「地域医療構想」を策定し、2025年問題に対処するために、「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へと介護を含めた政策の転換が図られます。今日、私たち医療現場においても、「時代は変わり、仕事も変わり、私たちも変わらなければいけない」状況にあるのではないのでしょうか。

臨床検査を通じて国民に対し、最良の医療を提供していくために、昨年6月医療法等の一部を改正する法律が成立し、医療法に「精度管理」の文言が初めて明記されました。今年7月「医療法施行規則」並びに「臨床検査等に関する法律施行規則」が公布され、臨床検査技師も精度管理責任者として明記され、今年12月に改正法が全面的に適用されることから、医療機関並びに衛生検査所等会員においては、施行に向けた準備が佳境に入っていることと存じます。

本学会のメインテーマである「協 ～多職種との連携と他職種との協働～」をテーマに進むべき方向性について考えていただくことは非常に有意義であり、あわせて学術活動の更なる発展と日頃の研究成果を発表する場として参加される会員にとって実り多き学会であることを祈念申し上げます。

最後になりましたが、本学会を運営するにあたりご尽力をいただきました野中 恵美学会長、正田 直実行委員長をはじめ、大分県臨床検査技師会の皆様に心より感謝申し上げます。

平成30年10月6日



学会長挨拶

平成30年度日臨技九州支部医学検査学会（第53回）

学会長 野中 恵美

（公益社団法人 大分県臨床検査技師会 副会長）

平成30年度日臨技九州支部医学検査学会（第53回）は、（公社）大分県臨床検査技師会の担当で平成30年10月6日（土）、7日（日）の両日に別府国際コンベンションセンター B-Con Plazaを会場として開催いたします。

本学会のメインテーマは、“協（かなう）”サブテーマを～多職種との連携と他職種との協働～としました。“協（かなう）”の意味ですが、文字から連想されるとおり力を合わせることで。しかし、この文字にはもっと深い意味があります。

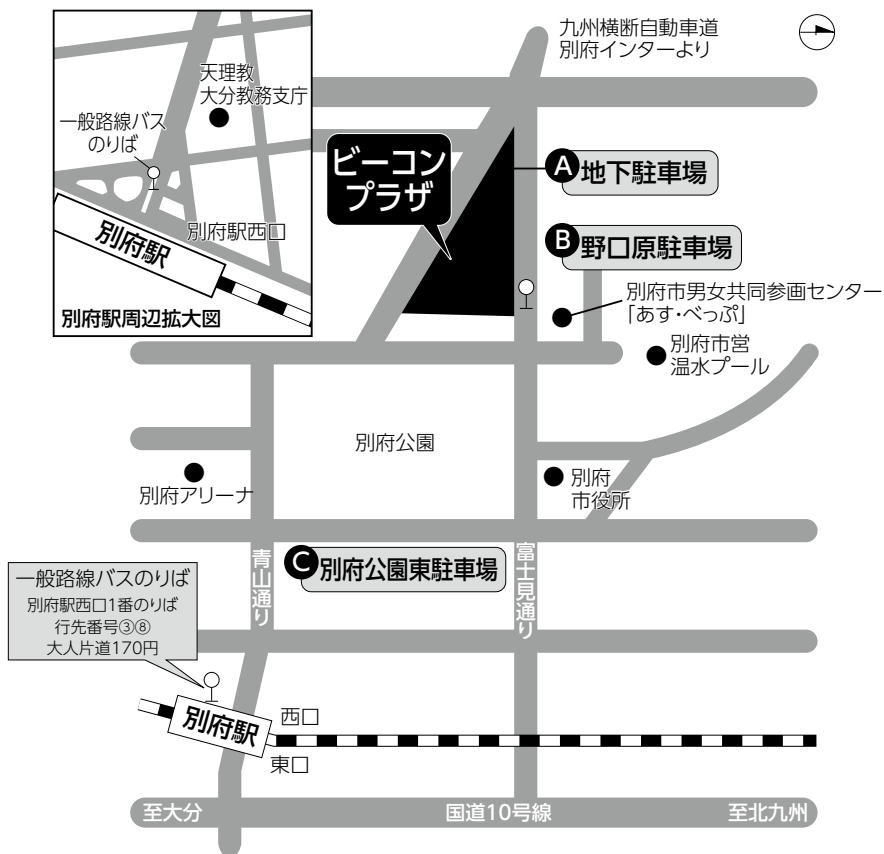
“協”の部首である十の一は東西を意味し、縦の丨は南北の意味があります。これらは東西南北と色々な方向を向いている力を合わせることで1つの目的を成し遂げるとの解釈ができます。医療に例えると、専門性の異なった医療スタッフが連携し、患者一人一人の診断・治療を目的として丸となって働いています。各専門的な力を同じ問題解決の方向に向けることで、早期の診断・治療に結びつくと思います。私たち臨床検査技師の専門性を活かすためにも、医療スタッフの連携が必要不可欠です。

このテーマを基に本学会は、一般演題をはじめ教育講演、文化講演、シンポジウム、学生シンポジウム、学術部門別企画などを計画しております。教育講演では、臨床検査技師から研究部門に進み、その研究成果から数々の賞を受賞された大分大学全学研究推進機構教授で“スーパー抗体酵素”を発見された一二三 恵美教授に「臨床検査を学んだ研究者として」と題してご講演頂きます。また、特別シンポジウムには学会のサブテーマである「多職種との連携と他職種との協働」を掲げ、ICT、NST、AST、輸血、在宅医療で接点の多い他職種の方にシンポジストをお願いしています。さらに分臨技企画として、「検査技師から広がる可能性」をテーマにシステム開発、医師、研究者に転身された方や専門性を活かして起業された方々からのお話を聞かせて頂く予定です。文化講演は、アフリカンサファリの獣医師として活躍されており市民に馴染みのある神田 岳委先生に「どうぶつと共に生きる」と題してご講演頂きます。同時に市民や学生に臨床検査技師の仕事などを知って頂くためのブースや進路支援のブースも併設する予定です。

大分県では、“国民文化祭2018”の担当県であり奇しくも学会開催と時期が同じであるため沢山の来県者が予想されます。さらに、ラグビーワールドカップの公認キャンプ地としても大分市、別府市の見どころ満載です。九州各県の皆様に山の幸、海の幸、風光明媚なおんせん県大分を楽しんで頂きたいと思います。

平成の年号で開催するのは今回が最後になります。皆様にとって記憶に残る学会になりますよう努力いたします。多くの方のご参加を、大分県臨床検査技師会会員一同、心よりお待ちしております。

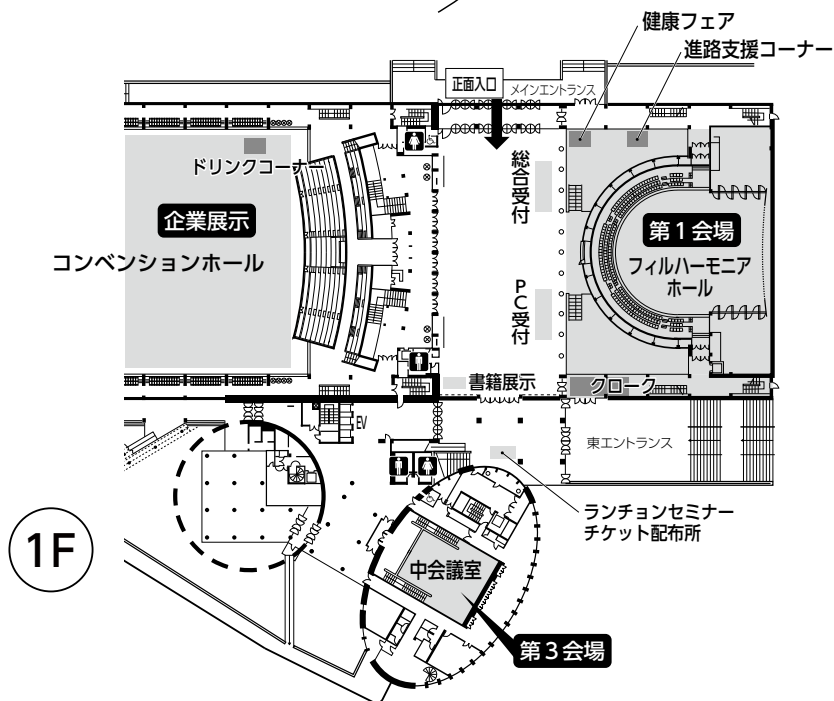
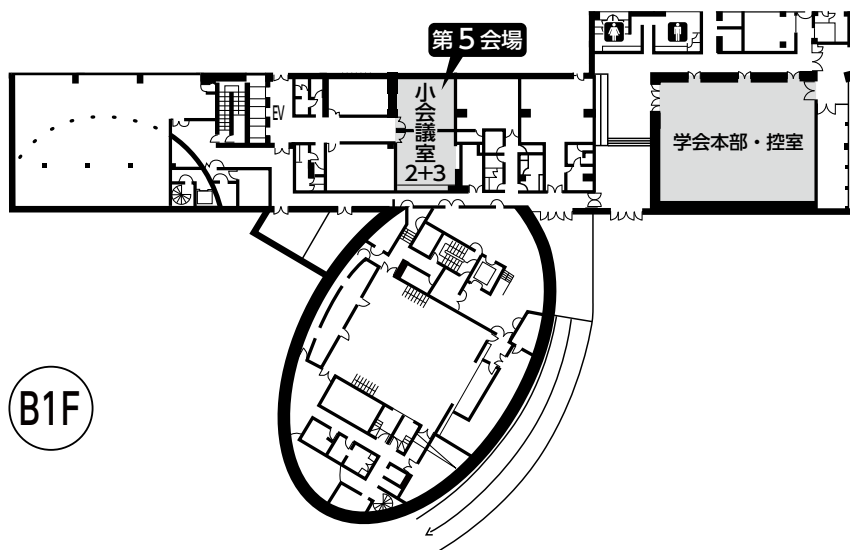
1. 会場への交通のご案内

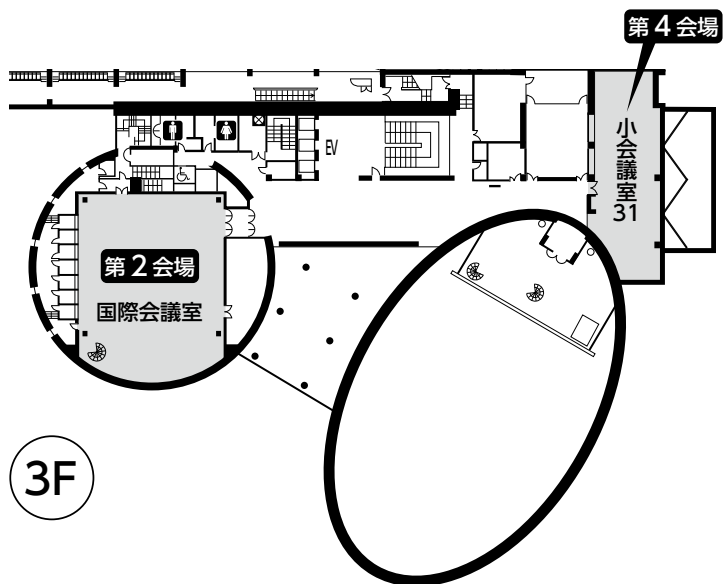
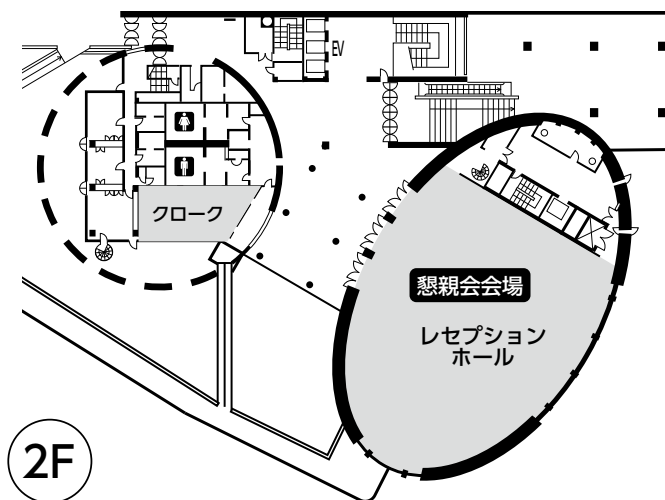


駐車場名称	収容台数	駐車料金
A ビーコンプラザ地下駐車場	58台	有料 (1時間無料 以後1時間につき100円)
B ビーコンプラザ野口原駐車場	138台	無料
C 別府公園東駐車場	360台	有料

JRをご利用の方	お車でお越しの方
JR日豊本線別府駅より ●徒歩15分 ●路線バス 運賃170円/約5分 JR別府駅西口→ビーコンプラザ前 (路線バスお問合せ：亀の井バス(株) TEL0977-23-0141) [JR別府駅西口1番のりば] 行先番号③または行先番号⑧	大分自動車道 (別府インターより) ●車で約10分

2. 会場案内図





3. 平成30年度 学会日程表

平成30年度日臨技九州支部医学検査学会（第53回）日程表

第1日目 10月6日（土）

会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	企業展示
	フィルハーモニアホール	国際会議室	中会議室	小会議室31	小会議室2+3	コンベンションホール
席数	約1100席	300席	160席	120席	100席	
階数	1F	3F	1F	3F	B1F	1F
8:00	8:00～ 受付					
8:30	8:30～ オープニングセレモニー 1Fエントランスホール					
9:00	9:00～10:10 血液 32～38	9:00～11:40 生理 48～63	9:00～9:40 一般 1～4	9:00～10:10 チーム医療・ 管理運営 101～107	9:00～10:40 微生物 81～90	9:00～18:00 企業展示
9:30			9:40～11:10 輸血 17～25			
10:00						
10:30						
11:00						
11:30						
12:00	11:55～12:55 ランチョンセミナー					
12:30	シスメックス 株式会社	ロシュ・ダイアグノ スティックス株式会社	東ソー 株式会社	オーソ・クリニカル・ ダイアグノスティックス株式会社		
13:00	13:10～15:10 特別企画Ⅰ 特別シンポジウム	13:10～14:40 シンポジウムⅠ 臨床生理	13:10～14:40 シンポジウムⅡ 輸血細胞治療	13:10～14:40 シンポジウムⅢ 生物化学分析		
13:30						
14:00						
14:30						
15:00						
15:30		15:20～16:50 教育講演				
16:00						
16:30						
17:00			17:00～17:50 日臨技企画Ⅰ			
17:30						
18:00			18:10～18:50 学会式典			
18:30						
19:00		19:00～21:00 懇親会 別府ビーコンプラザ 2Fレセプションホール				

第2日目 10月7日(日)

会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	企業展示
	フィルハーモニアホール	国際会議室	中会議室	小会議室31	小会議室2+3	コンベンションホール
席数	約1100席	300席	160席	120席	100席	
階数	1F	3F	1F	3F	B1F	1F
8:00	8:00～ 受付					
8:30						
9:00	9:00～11:40 特別企画Ⅱ 分臨技企画	8:50～11:40 生理 64-80	9:00～10:10 血液 39-45	9:00～9:20 病理・細胞 46,47 9:20～10:00 臨床化学・免疫血清 13-16	9:00～10:00 輸血 26-31	8:50～13:00 企業展示
9:30						
10:00			10:10～11:40 シンポジウムⅣ 臨床一般	10:00～11:40 微生物 91-100	10:10～11:40 シンポジウムⅤ 臨床検査総合	
10:30						
11:00						
11:30						
12:00	市民公開プログラム	11:55～12:55 ランチョンセミナー				
12:30		積水メディカル 株式会社	アボット ジャパン 株式会社	ベックマン・ コールター株式会社	アークレイ マーケティング株式会社	
13:00	12:00～14:00 健康フェア	13:10～14:40 日臨技企画Ⅱ 学生シンポジウム	13:10～14:40 シンポジウムⅥ 臨床血液	13:10～14:40 シンポジウムⅦ 臨床微生物		
13:30						
14:00	14:40～15:40 文化講演					
14:30						
15:00						
15:30						
16:00						

4. 発表データの作成・受付について

■利益相反の開示について

日臨技主催の学会では、演題発表時、筆頭発表者におけるCOIの開示が義務付けられています。これに準じ、COIの有無に関わらず、発表スライドにてCOIの開示をお願いします。

詳細は一般社団法人日本臨床衛生検査技師会ホームページをご確認ください。

■発表データ作成について

- ・当日会場で使用するPCのOSはWindows7です。
- ・メディア持込の場合は、PowerPoint2003/2007/2010/2011/2013/2016で作成されたデータのみといたします。
- ・Mac OSで作成されたデータには対応できませんので、必ずご自身のノートPCをご持参ください。
- ・発表データはUSBメモリまたはCD-ROM（CD-R）にてお持ちください。
※保存するメディアには発表に必要なデータのみとし、他のデータは保存しないでください。
※データは最新のウイルス駆除ソフトを使用してウイルスチェックを行ってください。
※バックアップデータとして予備のデータをお持ちいただくようお願いいたします。
- ・原稿ファイルのタイトルは【セッション名または演題番号】【氏名】としてください。
- ・フォントは、OS標準のもののみ用いてください。（MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝など）
- ・会場で使用する画面の解像度は、XGA（1024×768ピクセル）です。
これ以外のサイズで作成した場合は、正確に表示できませんので、ご注意ください。
- ・PowerPoint上の動画使用は可能ですが、動画データはWindows7標準状態のWindows Media Playerで再生できるファイル形式にて作成し、PowerPointにリンクしてください。音声は使用できません。
※事前に発表データを作成したPCとは別のPCで、動作確認をお願いいたします。
※動画再生に不安のある方はご自身のPCをご持参いただくことをお勧めいたします。

■発表データ受付について

- ・発表用スライドデータは、発表当日に受付いたします。
参加受付をお済ませの上、セッション開始30分前までにPC受付にてデータ受付をお済ませください。
- ・PC受付での原稿修正はできません。また、データ格納後のスライドデータの修正は原則として受け付けませんのでご注意ください。
- ・大会終了後、発表データは事務局で責任をもって消去いたします。

【PC受付】

【日時】10月6日（土） 8：00～18：00

10月7日（日） 8：00～14：00

【場所】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fメインエントランスホール

■発表について

- ・投影スクリーンは1面です。発表にはWindows PCとプロジェクター1台を使用いたします。
- ・パソコンによるプレゼンテーションは、演台にセットされているモニター、マウスまたはキーボードを使用し、ご自身で操作願います。
- ・スムーズな進行をするために「発表者ツール」の使用はお控えください。
- ・PCによる発表のみとなります。その他のスライド・ビデオなどは使用できませんのでご注意ください。

■ノートパソコンをお持ち込みの方

- ・発表中にバッテリー切れとなることがありますので、必ずPC付属の電源アダプターをご持参ください。
- ・会場にて接続するケーブルのコネクター形状はMini D-sub 15pin（右写真）です。
Macintoshなど専用の接続アダプターが必要な機種については、必ずご持参ください。DVIやHDMIでの接続は出来ません。
- ・画面の解像度は、XGA（1024×768ピクセル）です。解像度の切り替えが必要なPCはあらかじめ設定をお願いいたします。
- ・パスワード設定、スクリーンセーバー、省電力設定はあらかじめ解除してください。
- ・念のため、バックアップをCD-RまたはUSBフラッシュメモリーでご持参ください。
- ・PC受付でデータ確認終了後は、発表会場のPCオペレーター席へ、セッション開始20分前までにご自身でPCをお持ちください。PCは発表終了後にオペレーター席にて返却いたします。



5. 学会へ参加される皆様へ

1. 会 場

別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza

〒874-0828 大分県別府市山の手町12-1

TEL : 0977-26-7111 FAX : 0977-26-7100

2. 参加受付

【日時】10月6日（土）8：00～18：00

10月7日（日）8：00～14：00

【場所】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fメインエントランスホール

【学会参加費】

日臨技会員：5,000円 ※会員証を必ずご持参ください

賛助会員：5,000円

学 生：無料 ※学生証をご提示ください

非 会 員：15,000円

【受付方法】

総合受付にて学会参加費をお支払い後、参加証・領収書をお渡しますので、記帳台にて施設名・氏名をご記入後、ネームホルダーに入れ着用してください。

また、備えておりますコングレスバッグを各自お取りください。

1) 日臨技会員

・受付の際「会員証」が必要となります。必ずご持参ください。

・総合受付の『会員受付』にて会員証を提示し、学会参加費をお支払いください。

2) 賛助会員

・総合受付の『賛助会員受付』にて受付を行い、学会参加費をお支払いください。

3) 学生

・総合受付の『学生受付』にて学生証を提示し、受付を行ってください。

4) 非会員

・総合受付の『非会員受付』にて受付を行い、学会参加費をお支払いください。

5) 会員証不携帯

・総合受付の『会員証不携帯受付』にて受付を行い、学会参加費をお支払いください。

3. プログラム集

総合受付にて1冊500円で販売いたします。

4. 入場

各会場へ入場される際には、必ずネームホルダーを着用してください。

着用のない方の入場はお断りいたします。

6. 発表者・座長・司会者へのご案内

【一般演題発表者の方へ】

1. 総合受付で参加受付をお済ませください。
2. 発表データの作成、受付についてはP8をご確認ください。
3. セッション開始の30分前までにPC受付にてスライドデータの受付をお済ませください。また、セッション開始15分前までに各会場の演者・座長受付で受付をお済ませの上、会場内左前方の次演者席にご着席ください。
4. 一般演題は全て口演形式で行います。
発表時間は、1 演題につき発表7分、質疑3分、計10分以内です。
発表時間は口演開始からではなく、座長による演者紹介が開始された時からとします。
進行は座長の指示に従ってください。

【一般演題座長の方へ】

1. 総合受付で参加受付をお済ませください。
2. 来場確認の為、セッション開始15分前までに各会場の演者・座長受付にて受付をお済ませの上、会場内右前方の次座長席へご着席ください。
3. 発表時間は、1 演題につき発表7分、質疑3分、計10分以内です。
時間を厳守し、円滑な進行にご協力ください。
4. 発表時間は座長による演者紹介が開始された時からカウントします。発表が延長した場合には、途中でも「そろそろ、まとめて下さい」と声をかけてください。

【特別企画講師・シンポジストの方へ】

1. セッション開始30分前までにスライドデータの受付をお済ませください。
発表データ作成および受付方法については、P8をご確認ください。
2. 来場確認の為、セッション開始15分前までに各会場の演者・座長受付にて受付をお済ませの上、会場内右前方の次演者席へご着席ください。
3. 講演時間は主催者から各講師の方へご連絡いたします。また、学会場での打合せ会が開催される場合は、時間、場所を別途ご連絡いたします。

【特別企画・シンポジウム司会の方へ】

1. 来場確認の為、セッション開始15分前までに各会場の演者・座長受付にて受付をお済ませの上、会場内右前方の次座長席へご着席ください。
2. 講演時間は主催者から各司会の方へご連絡いたします。また、学会場での打合せ会が開催される場合は、時間、場所を別途ご連絡いたします。
3. 担当する講演時間を厳守し、円滑な進行にご協力ください。

7. ご案内

◆WEB抄録のご案内

抄録は下記URLまたはQRコードよりアクセス後、ダウンロードをお願いいたします。

【リリース予定】9月中旬頃

【URL】<http://congress.jamt.or.jp/kyushu53/>



QRコード

◆オープニングセレモニー

皆様の多数のご参加をお願いいたします。

【日時】10月6日（土）8：30～

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fメインエントランスホール

◆学会式典

会員の皆様の多数のご参加をお願いいたします。

【日時】10月6日（土）18：10～18：50

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fフィルハーモニアホール

◆懇親会

受付にてお申込みください。

会員の皆様の多数のご参加をお待ちいたしております。

【日時】10月6日（土）19：00～21：00

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 2Fレセプションホール

【参加費】5,000円

◆企業展示

40社53小間の参加となっております。

会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

【日時】10月6日（土）8：30～ オープニングセレモニー（テープカット）

9：00～18：00

10月7日（日）8：50～13：00

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fコンベンションホール

◆ランチョンセミナー

ランチョンセミナーは整理券制となっております。お1人様各日1枚まで、無くなり次第配布を終了いたします。

会場内および会場周辺には飲食施設がございませんので、ランチョンセミナーにご参加ください。

【配布日時】10月6日（土）8：00～

10月7日（日）8：00～

【配布場所】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1F東エントランスホール

◆書籍展示販売

皆様の多数のご参加をお待ちしております。

【日時】10月6日（土）9：00～18：00

10月7日（日）8：50～13：00

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fメインエントランスホール

◆ドリンクコーナー

展示会場内に、無料ドリンクコーナーを設けております。

【日時】10月6日（土）9：00～18：00

10月7日（日）8：50～13：00

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fコンベンションホール

◆クローク

下記時間帯でクロークを開設いたします。

10月6日（土）夜は懇親会会場（2Fレセプションホール）前にも開設いたします。

貴重品はご自身で管理いただきますようお願いいたします。

なお、お預けの荷物は当日中にお引き取りください。

【クローク受付時間】

第1会場ホワイエ（1Fフィルハーモニアホール前）

10月6日（土）8：00～21：30

10月7日（日）8：00～16：00

懇親会会場前（2Fレセプションホール前）

10月6日（土）18：00～21：30

◆呼び出し、伝言

会場内サブスクリーン及び館内放送での呼び出しは原則行いません。

緊急の場合は、総合受付までご連絡ください。

◆駐車場

会場の駐車場には限りがございます。出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

◆学会事務局からのお願い

- ・会場内での撮影や録音はご遠慮ください。
- ・会場内では携帯電話はマナーモードにしておくか、電源をお切りください。また、会場内での通話をご遠慮ください。
- ・会場内は、禁煙です。所定の場所以外ではご遠慮願います。

8. 関連行事

◆九州支部幹事会

【日時】10月5日（金）14：00～17：00

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza B1F小会議室2+3

幹事会懇親会 18：30～

会場：福岡内（〒875-0053 大分県臼杵市福良平清水7組 TEL：0972-62-5377）

◆関連会議

臨床血液部門 10月6日（土） 11：00～12：00 3F小会議室32

臨床一般部門 10月6日（土） 11：00～12：00 3F小会議室33

臨床微生物部門 10月7日（日） 10：00～11：00 3F小会議室32

病理細胞部門 10月7日（日） 10：00～11：00 3F小会議室33

輸血細胞治療部門 10月7日（日） 11：00～12：00 B1F小会議室4

臨床生理部門 10月7日（日） 11：00～12：00 3F小会議室32

生物化学免疫部門 10月7日（日） 11：00～12：00 3F小会議室33

◆中高生向け進路支援コーナー

【日時】10月7日（日）10：00～14：00

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fフィルハーモニアホール ホワイエ

～市民公開プログラム～

◆健康フェア

【日時】10月7日（日）12：00～14：00

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fフィルハーモニアホール ホワイエ

◆文化講演（一般公開講演会）

「どうぶつと共に生きる」

講師：神田 岳委 先生

（九州自然動物公園アフリカンサファリ株式会社 取締役展示部部长 専門獣医師）

【日時】10月7日（日）14：40～15：40

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1Fフィルハーモニアホール

【入場料】無料

◆日本赤十字社からのお知らせ

＜血液事業紹介＞

【日時】10月6日（土）9：00～18：00

10月7日（日）8：50～13：00

【会場】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1F東エントランスホール

＜献血のお願い＞

【日時】10月6日（土）10：00～16：30

【献血受付】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 1F東エントランスホール

【献血場所】別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza横 芝広場駐車場

9. 各県別一般演題数及び座長数

〈演題数〉

	一 般	臨 免 床 疫 化 血 学 清	輸 血	血 液	病 細 理 胞	生 理	微 生 物	管 理 チ ーム 運 営 医 療	合 計
福 岡 県	2	6	6	5	2	14	5	2	42
佐 賀 県						3	1		4
長 崎 県	1	1				2	2		6
熊 本 県				1		3	1	1	6
大 分 県			2	4		6	4	3	19
宮 崎 県		2				1	3		6
鹿 児 島 県		2	4	3		3	1		13
沖 縄 県	1	1				1	3	1	7
日 臨 技 学 生			3	1					4
合 計	4	12	15	14	2	33	20	7	107

〈座長数〉

	一 般 演 題								合 計
	一 般	臨 免 床 疫 化 血 学 清	輸 血	血 液	病 細 理 胞	生 理	微 生 物	管 理 チ ーム 運 営 医 療	
福 岡 県		1	1	1	1	1		1	6
佐 賀 県				1		1	1		3
長 崎 県			1			1	1		3
熊 本 県			1			1	1		3
大 分 県	1	1	1	1		2	1	1	8
宮 崎 県				1		1	1		3
鹿 児 島 県		1	1			1			3
沖 縄 県						1	1		2
合 計	1	3	5	4	1	9	6	2	31

10. 学会開催地・学会長一覧

【日臨技九州支部医学検査学会】

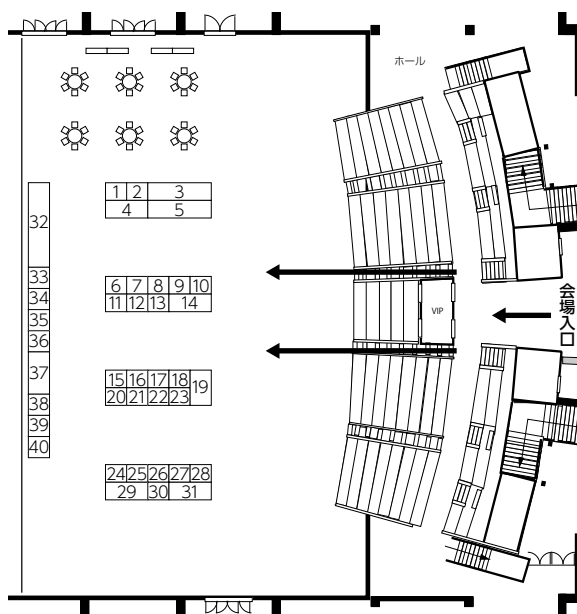
開催回	開催年度		開催地名	学会長名	開催回	開催年度		開催地名	学会長名
第1回	昭和36年	1961年	熊本市	石田 弘	第28回	平成5年	1993年	諫早市	春田 純吾
第2回	昭和37年	1962年	長崎市	高木 鉄義	第29回	平成6年	1994年	熊本市	梅橋 豊蔵
第3回	昭和38年	1963年	鹿児島市	谷山勢之輔	第30回	平成7年	1995年	別府市	菅原 弘一
第4回	昭和40年	1965年	別府市	寺田 勝美	第31回	平成8年	1996年	宮崎市	中馬 澄男
第5回	昭和41年	1966年	宮崎市	河喜多龍祥	第32回	平成9年	1997年	福岡市	占部 勇二
第6回	昭和42年	1967年	佐賀市	堤 明憲	第33回	平成10年	1998年	熊本市	梅橋 豊蔵
第7回	昭和43年	1968年	福岡市	浜田宇之助	第34回	平成11年	1999年	唐津市	香野 勉
第8回	昭和44年	1969年	熊本市	大藪 藤雄	第35回	平成12年	2000年	鹿児島市	宇都 和治
第9回	昭和45年	1970年	長崎市	小口 十蔵	第36回	平成13年	2001年	大村市	今村 文章
第10回	昭和46年	1971年	鹿児島市	中原 節	第37回	平成14年	2002年	別府市	後藤 英雄
第11回	昭和48年	1973年	延岡市	高橋 秋雄	第38回	平成15年	2003年	熊本市	広瀬 英治
第12回	昭和49年	1974年	嬉野市	池田 昭次	第39回	平成16年	2004年	宮崎市	日野浦雄之
第13回	昭和50年	1975年	北九州市	末松 英資	第40回	平成17年	2005年	福岡市	長迫 哲朗
第14回	昭和51年	1976年	熊本市	蔵元 虎蔵	第41回	平成18年	2006年	宜野湾市	手登根 稔
第15回	昭和53年	1978年	鹿児島市	満留 敏弘	第42回	平成19年	2007年	佐賀市	山田 隆司
第16回	昭和54年	1979年	別府市	寺田 勝美	第43回	平成20年	2008年	鹿児島市	原田佳代子
第17回	昭和55年	1980年	宮崎市	笹原 徹	第44回	平成21年	2009年	佐世保市	丸田 秀夫
第18回	昭和56年	1981年	武雄市	福地 晋	第45回	平成22年	2010年	別府市	佐藤 元恭
第19回	昭和58年	1983年	那覇市	金城 幸永	第46回	平成23年	2011年	熊本市	瀧口 巖
第20回	昭和59年	1984年	熊本市	林田 寿幸	第47回	平成24年	2012年	宮崎市	津曲 洋明
第21回	昭和60年	1985年	長崎市	春田 純吾	第48回	平成25年	2013年	福岡市	友松 哲夫
第22回	昭和61年	1986年	大分市	玉井 重信	第49回	平成26年	2014年	宜野湾市	松川 正男
第23回	昭和63年	1988年	宮崎市	持田 正行	第50回	平成27年	2015年	鹿児島市	有村 義輝
第24回	平成元年	1989年	福岡市	宮原 道明	第51回	平成28年	2016年	佐賀市	堤 玲子
第25回	平成2年	1990年	那覇市	沢紙 義英	第52回	平成29年	2017年	長崎市	丸田 秀夫
第26回	平成3年	1991年	佐賀市	鶴田 公一	第53回	平成30年	2018年	別府市	野中 恵美
第27回	平成4年	1992年	鹿児島市	中村 勝廣					

【日本医学検査学会（九州支部開催）】

開催回	開催年度		開催地名	学会長名	開催回	開催年度		開催地名	学会長名
第13回	昭和39年	1964年	福岡市	千尾 秀治	第41回	平成4年	1992年	熊本市	上野 一誠
第21回	昭和47年	1972年	大分市	寺田 勝美	第49回	平成12年	2000年	宜野湾市	徳本 弘
第26回	昭和52年	1977年	長崎市	井上 和義	第56回	平成19年	2007年	宮崎市	日野浦雄之
第31回	昭和57年	1982年	福岡市	森 成之	第64回	平成27年	2015年	福岡市 (佐賀県担当)	百田 浩志
第36回	昭和62年	1987年	鹿児島市	満留 敏弘					

11. 展示会場案内図

企業展示小間割配置図 1Fコンベンションホール



小間番号	企業名
1	株式会社テクノメディカ
2	アークレイ マーケティング株式会社
3	東洋羽毛九州販売株式会社
4	株式会社日立ハイテクノロジーズ
5	正晃株式会社
6	富士フイルム和光純薬株式会社
7	サン情報サービス株式会社
8	東洋紡エンジニアリング株式会社
9	株式会社アステム
10	積水メディカル株式会社
11	栄研化学株式会社
12	デンカ生研株式会社
13	日本電子株式会社
14	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
15	フクダ電子西部販売株式会社
16	株式会社堀場製作所
17	メディカルシステム株式会社
18	ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社
19	株式会社LSIメディアエンス
20	アルフレッサファーマ株式会社

小間番号	企業名
21	キヤノンメディカルシステムズ株式会社
22	株式会社ミズホメディー
23	協和メデックス株式会社
24	アリーアメディカル株式会社
25	株式会社キュウメイ研究所
26	関東化学株式会社
27	富士レビオ株式会社
28	ラジオメーター株式会社
29	チェスト株式会社
30	アイ・エル・ジャパン株式会社
31	オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
32	シスメックス株式会社
33	アボット ジャパン株式会社
34	株式会社翔薬／株式会社スズケン
35	富士フイルムメディカル株式会社
36	日本光電工業株式会社
37	ニプロ株式会社
38	株式会社エイアンドディー
39	東ソー株式会社
40	日水製薬株式会社

12. 特別企画一覧

教育講演

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第1会場	10月6日(土) 15:20～16:50	臨床検査を学んだ研究者 として	一三 恵美 大分大学・全学研究推進 機構 教授	伊賀上 郁 平成30年度 日臨技九州支部医学 検査学会(第53回) 展示部長/ 大分県立病院

文化講演

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第1会場	10月7日(日) 14:40～15:40	どうぶつと共に生きる	神田 岳委 九州自然動物公園 アフリカンサファリ株式会社 取締役展示部部长 専門獣医師	山下 広光 平成30年度 日臨技九州支部医学 検査学会(第53回) 事務局長/ 大分赤十字病院

日臨技企画Ⅰ

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第1会場	10月6日(土) 17:00～17:50	日臨技を新生させ、未来 を拓く 平成30・31年度 日臨技事業展開 (優先課題)	宮島 喜文 一般社団法人 日本臨床 衛生検査技師会 代表理事 会長	佐藤 元恭 平成30年度 日臨技九州支部医学 検査学会(第53回) 顧問・相談役/ 三愛総合健診センター
		医療法等の一部改正に おける日臨技の対応に ついて	滝野 寿 一般社団法人 日本臨床 衛生検査技師会 専務理事	

日臨技企画Ⅱ 学生シンポジウム

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第2会場	10月7日(日) 13:10～14:40	必要とされる臨床検査技師を目指して	橋田 紗綾 大分臨床検査技師専門学校	西浦 明彦 日臨技執行理事／ 一般社団法人 福岡県 臨床衛生検査技師会 会長 百田 浩志 一般社団法人 佐賀県 臨床検査技師会 会長
		臨床検査技師としての将来	白川 嵩 日本文理大学医療専門学校	
		理想の検査技師に近づくために必要な素質	豊沢 新菜 美萩野臨床医学専門学校	
		将来の臨床検査技師～臨地実習を経験して～	服部 華奈 久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	
		これからの臨床検査技師のあり方	有村 義輝 日臨技理事／ 一般社団法人 鹿児島県 臨床検査技師会 会長	

特別企画Ⅰ 特別シンポジウム 「多職種との連携と他職種との協働」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第1会場	10月6日(土) 13:10～15:10	臨床輸血看護師の役割について ～安全で適正な輸血を支えるチームの一員として～	工藤 美由紀 大分記念病院 看護師	疋田 直 平成30年度 日臨技九州支部医学 検査学会(第53回) 実行委員長／ 南海医療センター 三浦 慎和 平成30年度 日臨技九州支部医学 検査学会(第53回) 施設・会場部長／ 大分大学医学部附属病院
		当院における多(他)職種との連携と協働	中村 佳子 公益社団法人 大分県 栄養士会／明野中央病院 管理栄養士	
		ICTにおける臨床検査技師の役割と期待したいこと ～情報の伝え方、伝わり方～	鎌田 善子 大分赤十字病院 看護師	
		抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動と評価	田中 遼大 大分大学医学部附属病院 薬剤師	
		在宅医療における多職種連携と協働	高橋 勝 一般社団法人 大分県医療 ソーシャルワーカー協会／ 社会医療法人 関愛会 坂ノ市病院	

特別企画Ⅱ 分臨技企画 「検査技師から広がる可能性」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第1会場	10月7日(日) 9:00～11:40	海外における大学教員としての可能性とその役割	森 大輔 Universiti Malaysia Sabah	野中 恵美 平成30年度 日臨技九州支部医学 検査学会(第53回) 学会長／ 大分臨床検査技師専門 学校 佐藤 啓司 平成30年度 日臨技九州支部医学 検査学会(第53回) 副実行委員長／ 大分三愛メディカル センター
		病院検査技師から民間 企業へ	原 邦夫 ソードシステム株式会社	
		個人事業主として開業して (超音波検査委託業務)	山本 浩一 メディカルサポートサービス	
		病理検査技師から広がる 医師の世界	沖田 英樹 福岡和白病院 総合内科・ 消化器内視鏡	

13. 部門企画一覧

シンポジウムⅠ 臨床生理部門 「多職種との連携～生理検査の向上～」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第2会場	10月6日(土) 13:10～14:40	心臓リハビリとの連携	伊東 佳子 大分岡病院	渡辺 秀明 国立病院機構都城医療 センター
		神経生理分野と他職種 との連携	片山 雅史 国際医療福祉大学	
		超音波検査士としての チーム医療への参画	水上 尚子 鹿児島大学医学部附属病院	丸山 知夏 国立病院機構別府医療 センター

シンポジウムⅡ 輸血細胞治療部門

「安全な輸血を行うために ～検査・輸血に対する問題点と対応、報告について～」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第3会場	10月6日(土) 13:10～14:40	依頼検査における最近の 動向	山崎 久義 日本赤十字社九州ブロック 血液センター	屋宜 宣直 沖縄県立北部病院
		輸血検査でのピットホール	舞木 弘幸 鹿児島大学病院	立川 良昭 大分大学医学部附属病院
		緊急大量輸血への対応に ついて	江頭 弘一 久留米大学病院	
		輸血検査の対応と報告に ついて～医師会立病院と しての取り組み～	結城 孝子 大分市医師会立アルメイダ 病院	

シンポジウムⅢ 生物化学分析部門 「生化学・免疫検査のススメ～検体検査をもっとのしく～」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第4会場	10月6日(土) 13:10～14:40	日常検査でのたのしみ 方、たのしさの伝え方	山内 恵 琉球大学医学部附属病院	緒方 良一 宮崎大学医学部附属病院
		精度管理事業を通じた 人材育成～現状と課題～	伊賀上 郁 大分県立病院	濱野 貴磨 社会医療法人長門莫 記念会 長門記念病院
		やってみよう病態解析 ～長崎県の取り組み～	臼井 哲也 長崎大学病院	
		教育研究分野における 生物化学分析検査 ～臨床化学はおもしろい と思ってもらうために～	池田 勝義 熊本保健科学大学	

シンポジウムⅣ 臨床一般部門 「臨床検査の他覚的所見から捉える「慢性腎臓病（CKD）」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第3会場	10月7日(日) 10:10～11:40	超音波像から見た腎機能変化に伴う形態的特徴と腎動脈血流波形	吉村 昭宏 大分県済生会日田病院	溝口 義浩 公立学校共済組合九州中央病院 山崎 亜衣 国立病院機構別府医療センター
		尿生化学を含む検査データからみたCKD	服部 雄城 九州医療センター	
		尿沈渣所見からみたCKD	木谷 貴嘉 長崎大学病院	

シンポジウムⅤ 臨床検査総合部門 「在宅医療への関わり」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第5会場	10月7日(日) 10:10～11:40	在宅医療の現状と検査技師の関わり	河村 康司 福西会病院 副院長	西村 仁志 熊本大学病院
		在宅医療における臨床検査(技師)の役割とは？	丸田 秀夫 日臨技常任理事／ 一般社団法人 長崎県臨床検査技師会 会長	

シンポジウムⅥ 臨床血液部門 「正確な凝固検査の結果を求める～凝固検査の報告をする前に～」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第3会場	10月7日(日) 13:10～14:40	九州における凝固検査の現状	古賀 紳也 大分大学医学部附属病院	岡崎 智治 医療法人三州会 大勝病院 寺原 孝弘 済生会 日向病院
		凝固検査の標準化	長島 美紀 熊本大学医学部附属病院	
		クロスミキシング試験の標準化はどうなるのか？	久保山 健治 久留米大学病院	

シンポジウムⅦ 臨床微生物部門 「従来法と最新技術の融合」

会 場	日 時	演題名	講演者	司 会
第4会場	10月7日(日) 13:10～14:40	従来法とおもに質量分析法との融合	草場 耕二 佐賀大学医学部附属病院	上野 民生 大分大学医学部附属病院
		従来法とおもに遺伝子検査との融合	大楠 清文 東京医科大学 微生物学分野 教授	

14. ランチョンセミナー一覧

10月6日(土) 11:55～12:55

No.	会 場	演題名	講演者	司 会	共 催
1	第2会場	敗血症診療における 医者の思考回路	川野 恭雅 福岡大学病院救命救急 センター 医局長	坂本 徳隆 福岡市民病院 検査部 技師長	シスメックス 株式会社
2	第3会場	代謝性骨疾患における ビタミンD検査の意義	田中 杏子 ロシュ・ダイアグノス ティックス株式会社 ラボソリューション事業部 マーケティング部 クリニカルマーケティング グループ	田久世 友希奈 ロシュ・ダイアグノス ティックス株式会社 カスタマーソリューション 部門 西日本サポート部 福岡グループ	ロシュ・ダイアグ ノスティックス 株式会社
3	第4会場	肝線維化マーカーと としてのオートタキシ ンの可能性	丸尾 直子 東ソー株式会社 バイオサイエンス事業部	手島 康雅 東ソー株式会社 福岡支店	東ソー株式会社
4	第5会場	ORTHO VISION導入 による輸血検査業務の 効率化	鋼 雅美 岡山済生会総合病院 中央検査科 技師長補佐	照瀬 祐一郎 オーソ・クリニカル・ダイ アグノスティックス株式 会社 九州沖縄営業所	オーソクリニカル ダイアグノスティッ クス株式会社

10月7日(日) 11:55～12:55

No.	会 場	演題名	講演者	司 会	共 催
5	第2会場	採血前～後のプロセスに おける注意点と検査値に 及ぼす影響について	那須 哲也 積水メディカル株式会社 検査事業統括部 PAS 事業部	柴田 裕子 積水メディカル株式会社 検査事業統括部 国内 営業所	積水メディカル 株式会社
6	第3会場	全自動化学発光免疫 測定装置 Alinity i の 使用経験	石原 香織 長崎大学病院 検査部 主任	黒木 秀作 大分大学医学部附属病院	アボット ジャパン 株式会社
7	第4会場	臨床微生物検査の 最新トピックス 2018	大楠 清文 東京医科大学 微生物学分野 教授	上野 民生 大分大学医学部附属病院	ベックマン・ コールター 株式会社
8	第5会場	糖尿病チームにおける 臨床検査技師の役割	加藤 康男 日本赤十字社 福岡赤十字病院 一般・微生物検査課長	葛城 功 大分市医師会立アルメイダ 病院 内分泌内科部長	アークレイ マーケティング 株式会社

15. 抄録目次 一般演題

〔一般 口演〕

第1日目 10月6日

第3会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 中会議室

<9:00>座長：財前 一貴（大分大学医学部附属病院）

- | | | |
|---|-------------------------------------|----------|
| 1 | トランスフェリンを追加導入した便潜血の評価について | 大城 七海ほか |
| 2 | ファブリー病診断における臨床との連携 | 角銅 智子ほか |
| 3 | 福岡市特定健康診査の開始から10年における実施状況と検査値の統計的考察 | 山根 直 |
| 4 | 尿沈渣10倍希釈法の有用性 | 浦壁 順一郎ほか |

〔臨床化学・免疫血清 口演〕

第1日目 10月6日

第4会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 小会議室31

<10:20>座長：榎本 恵梨果（大分大学医学部附属病院）

- | | | |
|---|--------------------------------------|---------|
| 5 | 急性腎障害における尿中NGALの有用性について | 神宮司 享ほか |
| 6 | 尿中NGAL測定試薬「アーキテクト・U-NGAL」の性能および有用性評価 | 古澤 恭平ほか |
| 7 | 肝線維化マーカー「オートタキシン」測定試薬の基礎的性能評価 | 梅村 明ほか |
| 8 | 好中球ゼラチナーゼ結合性リボカリンキットの性能評価 | 古川 絢華ほか |

<11:00>座長：三栖 徹也（久留米大学病院）

- | | | |
|----|----------------------------------|---------|
| 9 | ABC分類（胃がんリスク検査）の導入について | 平田 哲也ほか |
| 10 | 全血中アンモニア値が心肺停止患者の予後予測因子となる可能性の検討 | 岩見 真人ほか |
| 11 | 当院健診受診者における血中亜鉛濃度の世代別調査 | 樽井 里佳ほか |
| 12 | 心原性脳塞栓症における鑑別精度および予後の検討 | 原田 美里ほか |

第2日目 10月7日

第4会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 小会議室31

<9:20>座長：中村 政敏（鹿児島大学病院）

- | | | |
|----|---|----------|
| 13 | リウマトイド因子がCRP測定に影響を与えたと考えられた1例 | 野崎 裕史ほか |
| 14 | 甲状腺関連項目（TSH, FT3, FT4）測定値に不一致を認めた症例の解析 | 花島 奈央ほか |
| 15 | NAFL、NASHにおける肝線維化マーカーとしてのFib-4 index の有用性 | 普天間 文也ほか |
| 16 | 透析患者における心筋障害マーカートロポニンTとトロポニンIの検討 | 吉田 治代ほか |

〔輸血 口演〕

第1日目 10月6日

第3会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 中会議室

<9:40>座長：江頭 弘一（久留米大学病院）

- | | | |
|----|------------------------------|---------|
| 17 | 心臓血管外科手術患者にて抗E+抗Fyaを検出した1症例 | 松本 亮希ほか |
| 18 | 当院における過去3年間の不規則抗体検出状況 | 高嶋 絵実ほか |
| 19 | 吸着解離試験にて血液型確定が困難であったA1Bmの1症例 | 古城 剛ほか |

<10:10>座長：葦苈 巖（大分県済生会日田病院）

- | | | |
|----|-------------------------------------|---------|
| 20 | 当院の緊急輸血対応マニュアルに従いB型患者にA型血小板を輸血した1症例 | 溝上 真衣ほか |
| 21 | 手術室非常事態宣言に対する検査部の取り組み | 川野 和彦ほか |
| 22 | グラツムマブ投与後のDTT処理輸血検査 | 舞木 弘幸ほか |

<10:40>座長：松永 光博（地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター）

- | | | |
|----|---------------------------------|---------|
| 23 | 臓器移植におけるLuminex法を用いたHLAタイピングの検討 | 橋口 裕樹ほか |
| 24 | 血液型精査の為にABO遺伝子タイピングの実施 | 舞木 弘幸ほか |
| 25 | Bmアレルの遺伝子タイピング | 宮元 珠華ほか |

第2日目 10月7日

第5会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 小会議室2+3

<9:00>座長：吉田 雅弥（熊本赤十字病院）

- | | | |
|----|--|----------|
| 26 | 炎症・感染症における好中球アルカリホスファターゼ活性高値の機序解明 | 江崎 あき菜ほか |
| 27 | プロカルシトニンによる単球系細胞からの組織因子とサイトカイン産生刺激について | 井 美紗稀ほか |
| 28 | 22℃ 保存血小板の細胞膜蛋白GP I b/IXの切断と切断酵素阻害剤の効果について | 朝倉 果琳ほか |

<9:30>座長：川上 保浩（出水総合医療センター）

- | | | |
|----|----------------------------|----------|
| 29 | 当院における洗浄血小板使用状況について | 岩男 千恵子ほか |
| 30 | 当院における血液製剤廃棄状況とその解析 | 得能 寛子ほか |
| 31 | 当院における血液製剤の適正使用と廃棄率ゼロを目指して | 金本 人美ほか |

〔血液 口演〕

第1日目 10月6日

第1会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza フィルハーモニアホール

<9:00>座長：齊藤 祐樹（久留米大学医療センター）

- | | | |
|----|---------------------------------|---------|
| 32 | 末梢血中に芽球様細胞が出現した鉄欠乏性貧血の1例 | 尾上 由美ほか |
| 33 | パルボウイルスB-19感染に伴う急性赤芽球癆の一症例 | 内村 華ほか |
| 34 | 播種性血管内凝固症候群を伴った重症熱性血小板減少症候群の1症例 | 安部 沙耶ほか |
| 35 | 海外渡航後にデング熱を発症した一例 | 佐藤 麻衣ほか |

<9:40>座長：佐々木 高太郎（都城健康サービスセンター）

- | | | |
|----|--|---------|
| 36 | 当院で経験した芽球形質細胞様樹状細胞腫瘍（BPDCN）の1症例 | 藤垣 大輔ほか |
| 37 | CD4(+)CD8(+)double positiveおよびCCR4(-)を示した成人T細胞白血病/リンパ腫の一症例 | 栗山 正嗣ほか |
| 38 | TKI治療中のCMLに発症したJAK2-V617F変異を有するMDS with myelofibrosis | 河野 克也ほか |

第2日目 10月7日

第3会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 中会議室

<9:00>座長：内堀 勢子（地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館）

- | | | |
|----|-------------------------------|---------|
| 39 | 鼻汁採取方法の違いによる好酸球染色の比較 | 倉永 隆司ほか |
| 40 | 診断に苦慮した悪性貧血の1例 | 永吉 幸ほか |
| 41 | 末梢血異常リンパ球を伴う低悪性度B細胞性リンパ腫の病型診断 | 曾我 泰裕ほか |

<9:30>座長：水永 正一（大分大学医学部附属病院）

- | | | |
|----|--|---------|
| 42 | トロロビン・アンチトロロビン複合体検査試薬「ナノピア® TAT」の基礎的検討 | 中島 賢祥ほか |
| 43 | 当院におけるAPTTクロスミキシングテストの現状 | 岩代 翔吾ほか |
| 44 | DICにおける基礎疾患別のTAT、SFを中心とした変動 | 岡田 和大ほか |
| 45 | 脳アミロイド血管症に伴う再発性脳出血に対するトラネキサム酸の再発予防効果 | 愛甲 杏奈ほか |

〔病理・細胞 口演〕

第2日目 10月7日

第4会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 小会議室31

<9:00>座長：平山 賢司（公立学校共済組合 九州中央病院）

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 46 クラミジア陽性症例における遺伝子検査と婦人科細胞診の比較検討 | 山口 沙由莉ほか |
| 47 S状結腸癌術後、脱分化型脂肪肉腫を発症した1剖検例 | 渋谷 秀徳ほか |

〔生理 口演〕

第1日目 10月6日

第2会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 国際会議室

<9:00>座長：竹内 保統（独立行政法人 国立病院機構 熊本医療センター）

- | | |
|--|----------|
| 48 当院における経胸壁心エコーデータからみたSAPIEN XT弁、SAPIEN3弁の初期・中期成績 | 杉田 国憲ほか |
| 49 大動脈四尖弁に対してTAVIを施行した一症例 | 樋口 裕樹ほか |
| 50 感染性心内膜炎症例～心エコーと他部門の連携 | 小島 真由美ほか |
| 51 TAVIにて右室穿孔を生じ術後急性心不全を呈した一症例 | 岡村 優樹ほか |

<9:40>座長：新名 洋明（臼杵市医師会立 コスモス病院）

- | | |
|----------------------------------|---------|
| 52 腎細胞癌から転移した心嚢腫瘍の一例 | 福本 遥佳ほか |
| 53 急性肝炎を疑った急性心筋炎の一例 | 高橋 光彦ほか |
| 54 悪性高血圧疑いの治療経過を経胸壁心エコー検査で追えた一症例 | 窪田 典洋ほか |
| 55 術中経食道心エコーで認めた左房内血栓の一例 | 石橋 正博 |

<10:20>座長：富園 正朋（国立病院機構 鹿児島医療センター）

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 56 当院で経験した肝血管筋脂肪腫の一例 | 椎野 有紀ほか |
| 57 超音波検査が検出と診断の契機となった小腸重複症の1例 | 三根 琴音ほか |
| 58 腎細胞癌と鑑別困難だったオンコサイトーマの一症例 | 永田 恭子ほか |
| 59 突発性非外傷性胃壁内血腫の1例 | 古賀 綾子ほか |

<11:00>座長：大島 綾花（佐賀大学医学部附属病院）

- | | |
|---|---------|
| 60 下咽頭癌検出・診断における超音波検査の有用性 | 伊東 春佳ほか |
| 61 診断と経過観察に腹部超音波検査が有用であった急性巣状細菌性腎炎の2小児例 | 綿苧 寛人ほか |
| 62 甲状腺機能低下症により心不全を発症した1例 | 内山 聖ほか |
| 63 当院での乳腺造影エコー検査の取り組み | 江藤 佳奈ほか |

第2日目 10月7日

第2会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 国際会議室

<8:50>座長：井本 達也（独立行政法人 国立病院機構 別府医療センター）

- | | |
|--|---------|
| 64 当院心電図室におけるパニック値の検討 | 上尾 有美ほか |
| 65 当院におけるImplantable Loop Recorderの現状 | 竹内 房子ほか |
| 66 ホルター心電計のペースメーカー検出機能により判明し回避できたリバーシブルの症例 | 渡邊 未紗ほか |

<9:20>座長：宮崎 明信（独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター）

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| 67 総合呼吸抵抗測定装置 MostGraph-01の基礎的検討（第2報） | 佐野 成雄ほか |
| 68 総合呼吸抵抗測定装置 MostGraph-01の基礎的検討（第3報） | 佐野 成雄ほか |
| 69 気管支サーマンプラスティにおける肺機能検査の有用性 | 吉富 博人ほか |
| 70 心疾患患者における握力と関連する生理機能検査項目の検討 | 松井 宏樹ほか |

- <10:00>座長：八木 和広（一般財団法人潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院）
- 71 当院での耳鳴検査の現状 横山 祥恵ほか
 72 敗血症患者で多彩な臨床経過を追えた一例 佐々 智子ほか
 73 超音波検査が発見契機となった肺膿瘍の1例 森中 恵美ほか
- <10:30>座長：斎藤 辰好（社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院）
- 74 慢性炎症性脱髄性多発神経炎にSLEを合併した一例における神経伝導検査の経時的変化 平井 宥也ほか
 75 パーキンソン病患者における睡眠中の心拍変動解析 八木 和広ほか
 76 MRI検査におけるDIR画像とT2Flair画像の比較検討 窪田 駿介ほか
- <11:00>座長：山田 勝也（長崎大学病院）
- 77 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者を肺機能検査で経時的に観察し得た一症例 常松 由華ほか
 78 肝硬度と生化学検査の臨床検討 中城 雄輝ほか
 79 動脈硬化に関する非侵襲的検査と関連因子についての検討 藤井 直人ほか
 80 二次健康診断における頸動脈超音波検査の有用性について 道崎 勇二ほか

〔微生物 口演〕

第1日目 10月6日

第5会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 小会議室2+3

- <9:00>座長：富岡 正和（都城健康サービスセンター）
- 81 結核菌群迅速検査の比較検討 東田 和子ほか
 82 Microscan RYIDパネルの延長培養における臨床分離株同定の比較検討 梅谷 昌司ほか
 83 全自動遺伝子解析装置GeneXpertシステムを用いたカルバペネマーゼの検出能の検討 平田 京子ほか
- <9:30>座長：八幡 照幸（沖縄県立中部病院）
- 84 当院の2013年から2017年の5年間における血液培養検査実施状況と評価 中尾 龍之介
 85 血液培養検査に関するICT活動と過去3年間の検査実施状況について 花木 祐介ほか
 86 *Chromobacterium haemolyticum*による敗血症の1例 富岡 正和ほか
- <10:00>座長：松尾 由美（地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター）
- 87 当院におけるインフルエンザの検出状況 池田 佳菜子ほか
 88 フィールドから学ぶジカウイルスの分子疫学的解析 八尋 隆明ほか
 89 当院における小児尿培養によりESBL産生大腸菌を検出した症例の患者背景について 金内 弘志ほか
 90 エアロゾル対策危機管理マニュアルの策定 八幡 照幸ほか

第2日目 10月7日

第4会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 小会議室31

- <10:00>座長：吉良 理穂（大分市医師会立 アルメイダ病院）
- 91 喀痰のグラム染色を契機に肺クリプトコッカス症の診断に至った一症例 後藤 裕一ほか
 92 抗酸菌蛍光染色における迅速化の検討 田中 麻梨乃ほか
 93 グラム染色で認めた*Mycobacterium abscessus*皮膚感染症の2症例 江島 遥ほか
- <10:30>座長：田口 舜（地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館）
- 94 *Pseudomonas aeruginosa*との鑑別に苦慮した*Pseudomonas otitidis*の1例 河原 菜摘ほか
 95 Panton-Valentine leukocidin 産生黄色ブドウ球菌による小児皮膚疾患の1症例 平良 大輝ほか
 96 *Enterococcus hirae*による感染症例 渡久地 陽架ほか
 97 *Sneathia sanguinegenes*による子宮内感染症の1例 山田 明輝ほか
- <11:10>座長：林 秀幸（独立行政法人 国立病院機構 熊本医療センター）
- 98 スエヒロタケ（*Schizophyllum commune*）によるアレルギー性気管支肺真菌症の1例 入村 健児ほか
 99 血液培養より分離された*Kodamaea ohmeri*の1症例 鳥巢 由真ほか
 100 非典型的形態を呈する*Aspergillus fumigatus*が分離された1症例 松元 優太ほか

〔チーム医療・管理運営 口演〕

第1日目 10月6日

第4会場：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 小会議室31

<9:00>座長：奥下 由紀子（社団法人 遠賀中間医師会 おんが病院）

101 FreeStyleリブレで得られた血糖変動パターンを多職種と共有し患者指導に生かす試み

深水 由美ほか

102 当院における健診での糖尿病ハイリスク者への早期介入

尾方 明美ほか

103 FGM（Flash Glucose Monitoring）利用して、1年間のまとめ

仲里 幸康

<9:30>座長：谷 好子（医療法人 野口記念会 野口病院）

104 ジャパン・マンモグラフィ・サンデー（JMS）への当院での取り組み

岩崎 美希ほか

105 当院における栄養評価指標の検討

岩崎 信子ほか

106 外国人患者受け入れのための当院での取り組み

福井 達也ほか

107 変化に対応する組織力

北村 洋子ほか

16. 協力企業一覧

【展示出展企業】

アークレイ マーケティング株式会社
アイ・エル・ジャパン株式会社
株式会社アステム
アボット ジャパン株式会社
アリーアメディカル株式会社
アルフレッサファーマ株式会社
株式会社エイアンドティー
栄研化学株式会社
株式会社LSIメディエンス
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
関東化学株式会社
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
株式会社キューメイ研究所
協和メデックス株式会社
サン情報サービス株式会社
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス株式会社
シスメックス株式会社
株式会社翔薬／株式会社スズケン
正見株式会社
積水メディカル株式会社
チェスト株式会社
株式会社テクノメディカ
デンカ生研株式会社
東ソー株式会社
東洋羽毛九州販売株式会社
東洋紡エンジニアリング株式会社
日水製薬株式会社
ニプロ株式会社
日本光電工業株式会社
日本電子株式会社
株式会社日立ハイテクノロジーズ
フクダ電子西部販売株式会社
富士フィルムメディカル株式会社
富士フィルム和光純薬株式会社
富士レビオ株式会社
株式会社堀場製作所
株式会社ミズホメディー
メディカルシステム株式会社
ラジオメーター株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

【書籍展示出展企業】

丸善雄松堂株式会社

【ランチョンセミナー協賛企業】

アークレイ マーケティング株式会社
アボット ジャパン株式会社
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
シスメックス株式会社
積水メディカル株式会社
東ソー株式会社
ベックマン・コールター株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

【プログラム集広告協賛企業】

アークレイ マーケティング株式会社
アボット ジャパン株式会社
栄研化学株式会社
株式会社LSIメディエンス
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
極東製薬工業株式会社
株式会社シノテスト
積水メディカル株式会社
セラビジョン・ジャパン株式会社
デンカ生研株式会社
東ソー株式会社
ニットーボーメディカル株式会社
ニプロ株式会社
日本電子株式会社
バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
ビオメリュー・ジャパン株式会社
株式会社日立ハイテクノロジーズ
富士フィルム和光純薬株式会社
富士レビオ株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

【協賛企業】

株式会社ビー・エム・エル
ビオメリュー・ジャパン株式会社

【コンGRESバッグ協賛企業】

アボット ジャパン株式会社
シスメックス株式会社

【ネームホルダー協賛企業】

アークレイ マーケティング株式会社

17. 学会実行委員会一覧

【学会実行委員会】

事務局	学会長	野中 恵美	大分臨床検査技師専門学校
	実行委員長	足田 直	南海医療センター
事務局	副実行委員長	佐藤 啓司	大分三愛メディカルセンター
	事務局長	山下 広光	大分赤十字病院
事務局	事務局担当	首藤 章弘	大分赤十字病院
		小松 由明	九州大学病院別府病院
総務部	総務部長	国原 久典	天心堂へつぎ病院
	総務副部長	渡辺 亨	アルメイダ病院
総務部		河野 好裕	大分県立病院
		大島 由香利	日本文理大学医療専門学校
経理部	経理部長	山崎 亜衣	別府医療センター
	経理副部長	甲斐 まさみ	大分中村病院
渉外部		宮本 綾	日本文理大学医療専門学校
		三浦 邦彦	アルメイダ病院
渉外部	渉外部長	尾越 典子	大分臨床検査技師専門学校
	渉外副部長	北永 裕一	大分臨床検査技師専門学校
広報部	広報部長	井本 達也	別府医療センター
		森 絵利子	大分大学医学部附属病院
広報部		阿部 有香里	九州大学病院別府病院
	広報副部長	熊笠御堂 章	高田中央病院
広報部		板井 圭司	豊後大野市民病院
		千崎 正教	大分県済生会日田病院
展示部		黒田 雄一	中浦循環器クリニック
	展示部長	伊賀上 郁	大分県立病院
展示部		水永 正一	大分大学医学部附属病院
	展示副部長	上野 正尚	厚生連鶴見病院
展示部		高瀬 哲	大分医療センター
		阿南 久美子	大分県立病院
展示部		末松 照子	アルメイダ病院
学術・プログラム部	学術・プログラム部長・査読委員長	谷 好子	野口病院
	生物化学分析部門	濱野 貴磨	長門記念病院
学術・プログラム部	染色体・遺伝子部門	三浦 慎和	大分大学医学部附属病院
	臨床微生物部門	小林 伸也	大分医療センター
学術・プログラム部	輸血細胞治療部門	立川 良昭	大分大学医学部附属病院
	臨床生理部門	加藤 由希子	アルメイダ病院
学術・プログラム部	臨床血液部門	古賀 紳也	大分大学医学部附属病院
	臨床一般部門	山崎 亜衣	別府医療センター
学術・プログラム部	病理細胞部門	平川 功二	大分大学医学部附属病院
	臨床検査総合部門	山下 広光	大分赤十字病院
施設・会場部	施設・会場部長	三浦 慎和	大分大学医学部附属病院
	第1会場責任者	古賀 紳也	大分大学医学部附属病院
施設・会場部	第2会場責任者	加藤 由希子	アルメイダ病院
	第3会場責任者	立川 良昭	大分大学医学部附属病院
施設・会場部	第4会場責任者	小林 伸也	大分医療センター
	第5会場責任者	平川 功二	大分大学医学部附属病院
施設・会場部	展示会場責任者	濱野 貴磨	長門記念病院
	健康フェア会場責任者	国原 久典	天心堂へつぎ病院
顧問・相談役		佐藤 元恭	三愛総合健診センター
システム部		山下 広光	大分赤十字病院
		伊賀上 郁	大分県立病院
システム部		三浦 慎和	大分大学医学部附属病院
		花木 祐介	大分医療センター
システム部		近藤 有介	アルメイダ病院
		宇留島 裕	大分県立病院
システム部		小野 道広	厚生連鶴見病院
		小野 亮介	佐賀関病院
システム部		日野 祐介	大分県済生会日田病院
		黒田 雄一	中浦循環器クリニック

「臨床検査を学んだ研究者として」

一二三 恵美

大分大学・全学研究推進機構 教授



研究者の免許

「(夜の) 12時までお待ちします。ご連絡ください。」というメールに気付いたのは土曜日の23時45分。「女性科学者に明るい未来をの会」会長の米沢富美子先生からのメールだった。大変失礼なことにピンとこなかった私は、「一二三恵美さんですね。あ～良かった。やっと連絡が取れました。おめでとうございます。今年の猿橋賞受賞者に決まりました。」を聞いて全身が固まってしまった。スーパー抗体酵素研究に取り組んで18年、いくつもの例を報告しているものの、分子機能の解析がなかなか進まず、「精一杯やってきたけれども、やはり能力不足は補えないのかなあ」という思いが年を重ねるごとに強くなっていた。猿橋賞の受賞により、漸く自分自身を研究者として認めることが出来るようになると同時に、色々な局面で選んだ道に間違いは無かったと確信出来る様になった。

臨床検査技師を目指して

18歳。「自宅から通えて資格が取れる道に進む」という思いで、山口大学医療技術短期大学部衛生技術学科(現、医学部保健学科)に進んだ。一般の短期大学よりも在学期間の長い3年のカリキュラムなのに、何故かキャンパスライフを楽しむ様な「ゆとり」はなく、いちいち厳しかった。実習期間中、毎日レポートの提出が必要だった科目もあるが、そのレポートは翌日には添削されて戻ってきた。病理実習の終わりに提出したスケッチノートは、全てのページがチェックされ、コメントの間違ひは赤字で修正されていた。当時は評定や先生のコメントを追うばかりであったが、自分が大学教育に携わる様になって、それがどれだけ大変なことか、どれだけの熱意で教育下さっていたのか感謝の言葉しか出て来ない。

就職難の年に卒業したこともあって入社試験を受けた化学系企業で内定を貰い、研究所・医薬研究部・診断薬研究室の配属になった。学生時代、「試薬が高価だから」との理由で、唯一経験することの出来なかったELISAに携わることになったが、種々の分析や抗体精製などの周辺技術に於いて上手く出来ずに困ったことはない。むしろ、開発中の製品に関する重要なデータを採取する場面では、「データ取り係」に任命されていたので、技術だけは評価されていたと思う。

スーパー抗体酵素との出会い

大学に移ったのは29歳の春で、抗体工学の研究室に所属して「モノクローナル抗体」を柱にした研究に取り組んだ。そんな時に卒業間近の学生が持ってきた「ELISAの妙なデータ」がスーパー抗体酵素研究のきっかけとなった。想定されるトラブルでは説明が出来ないデータであったことから、消去法で一つづつ原因を除いた結果、最後に残ったのは「モノクローナル抗体の軽鎖が抗原ペプチドを分解した？」であった。

今だから言えることであるが、抗体タンパクは幅広い構造多様性を持つ。特に軽鎖や重鎖を単独で取り扱う場合にはその傾向が顕著で、スーパー抗体酵素(抗原分解能を有する抗体鎖)を酵素活性サイトが機能出来る様に均一化することは非常に難しい。それゆえ、検証実験は困難を極めた。実験技術だけは自信があり、細心の注意を払いながら取り組んでいるにも関わらず、安定した結果が得られない。かといって、間違いだという確信も持てない。この中途半端さがたまらなく嫌で、休日返上で実験台に向かい続けた1年半後に抗原タンパクの分解実験に成功し、発見から2年後に漸く学会発表に至った。

スーパー抗体酵素は偶然？必然？

「抗体軽鎖（あるいは重鎖）には抗原分解能を持つものが存在する」と言うと、抗体と馴染みのある方の多くは「なにを馬鹿なこと言ってるの？」と思われるだろう。最初の例を発見した当初は、B細胞の体細胞変異によって偶然にもたらされたものだろうと考えていた。しかしながら、ゲノムの遺伝子レベルに遡って調べると、「スーパー抗体酵素にはなり得ないグループ」と「スーパー抗体酵素になるかも知れないグループ」に分類出来るのではないかと考えられた。この考え方に基づいて、(1) ターゲットに対するモノクローナル抗体を作製し、その遺伝情報を手がかりにスーパー抗体酵素を選び出す方法、(2) ヒト末梢血リンパ球を試料として、抗体酵素として適した配列を持つ軽鎖遺伝子のみを選択増幅させてライブラリー化する方法で、各種スーパー抗体酵素の作製に成功した。

現在は、積年の課題である「分子構造の謎」に取り組んでおり、新しい事実が判明する度に「あの頃、なかなか再現性が得られなかったはずだ」を実感すると同時に、この発見を楽しんでいる。

臨床検査技師と研究者

医療短大を卒業後、これまでに携わった分析で、学生時代に実際に経験していたのはタンパク定量くらいであり、なによりも「分子生物学」なる学問は全く経験していない。しかしながら、ほぼ独学で遺伝子工学を学び、現在は研究室内で、日常的に遺伝子組み換えや発現、精製を行っている。これには、微生物学で学んだ菌の性質や取り扱い方がとても役立った。細胞培養では、細胞診で学んだ細胞に関する知識が役に立った。分析に用いる各種試薬やサンプル類の管理に気を配れるのは、検体や試薬管理の重要性を厳しく説かれたからに他ならない。

医療短大から4年制になり、現在は大学院まで学べる道が開けて、技術のみならず研究の思考も学べる様になった。若い方々には、医学のフィールドのみならず、生物工学、生命工学の分野にも目を向けて、活躍の場を広げて頂きたいと思う。

【略歴】

一二三恵美, 大分大学・全学研究推進機構・教授, 工学博士

1986年3月、山口大学医療技術短期大学部・衛生技術学科卒業。同年、宇都興産株式会社入社、医薬研究部配属。1993年5月より広島県立大学・生物資源学科（現在の県立広島大学・生命環境学部）助手、2005年4月より准教授。2005年10月～2009年3月までJSTさがりけ「構造機能と計測分析」領域研究員兼務。2007年3月より大分大学・先端医工学研究センター・教授、2009年10月より同大・全学研究推進機構・教授。

2004年5月 第6回守田科学研究奨励賞、2014年5月 第34回猿橋賞

【主な業績】

1. Structural diversity problems and the solving method for antibody light chains. E. Hifumi, H. Taguchi, R. Kato, M. Arakawa, Y. Katayama, T. Uda, *Antibody Engineering*, Chapter 10, 231-257(2018) (Intech publisher)
2. Role of the constant region domain in the structural diversity of human antibody light chains. E. Hifumi, H. Taguchi, R. Kato, T. Uda, *FASEB J.*, 31, 1668-1677(2017)
3. A novel method of preparing the mono-form structure of catalytic antibody light chain. E. Hifumi, S. Matsumoto, H. Nakashima, S. Itonaga, M. Arakawa, Y. Katayama, R. Kato, T. Uda, *FASEB J.*, 30, 895-908(2016).
4. Biochemical features and anti-viral activity of a monomeric catalytic antibody light chain 23D4 against influenza A virus. E. Hifumi, M. Arakawa, S. Matsumoto, T. Yamamoto Y. Katayama, T. Uda, *FASEB J.*, 29, 2347-2358(2015)
5. Catalytic and biochemical features of a monoclonal antibody heavy chain, JN1-2, raised against a synthetic peptide with hemagglutinin molecule of influenza virus. E. Hifumi, S. Takao, N. Fujimoto, T. Uda, *J. Am. Chem. Soc.*, 133(38), 15015-24(2011).
6. Catalytic features and eradication ability of antibody light chain UA15-L against *H. pylori*. E. Hifumi, F. Morihara, K. Hattuchi, T. Okuda, A. Nishizono, T. Uda, *J. Biol. Chem.*, 283(2), 899-907(2008)
7. Destruction of gp41 of HIV-1 envelope by its catalytic antibody light chain. T. Uda, E. Hifumi, Y. Okamoto, Z. Yan, M. Ishimaru, *Clinical Science*, Supplement Vol. 2, 429-433(1998). The 12th World AIDS Conference, Geneva (Switzerland).

文化講演

「どうぶつと共に生きる」

神田 岳委

九州自然動物公園アフリカンサファリ株式会社
取締役展示部部长 専門獣医師



【プロフィール】

大分県臼杵市 昭和44年生まれ 49歳

大分県立臼杵高校を卒業後、東京にある日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）に入学。

平成6年に獣医師となり、九州自然動物公園アフリカンサファリ株式会社に入社。現在に至る。

現在、九州自然動物公園アフリカンサファリ株式会社 取締役展示部部长 専門獣医師。

臼杵市教育委員。

大分県獣医師会 学校飼育動物担当。

大分合同新聞に「獣医さんの観察記」を連載中。

著書「サバンナに生きる」大分合同新聞社。

写真集「もふもふ日誌」リブレ出版。

OBSラジオ「動物なしか」出演中。

OBSテレビ「カボスタイム」出演中。

【主な講演内容】

アフリカンサファリで毎日起きている動物たちの生や死を飼育員や獣医師の目を通してお伝えしたいと思います。その結果、少し動物たちの事を好きになって頂きたいと考えております。



「日臨技を新生させ、未来を拓く」

平成30・31年度日臨技事業展開（優先課題）

宮島 喜文

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 代表理事 会長



平成24年度に会長に就任以来、「日臨技を新生させ、臨床検査技師の未来を拓く」をスローガンに法制度の改正や各種事業に取り組んできた。その原点とも言えるものは、平成19年12月28日付医政局長通知による「採血・検査説明に臨床検査技師が十分関わっていない」との指摘であり、このことを改善できなくては、医療現場で臨床検査技師がチーム医療に参加しているとは言えないとの認識の下で、「検査説明・相談のできる臨床検査技師の育成事業」の全国展開、平成26年6月18日第168国会で成立した「臨検法の一部改正」改正や「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会」の展開、病棟業務実証検証、認知症への対応力向上講習会、在宅医療参画のための調査事業など展開する中、昨年は「医療法等の一部を改正する法律」を改正し、医療機関、登録衛生検査所等において実施される検体検査の精度の確保の基盤が構築できた。

しかし、これら事業展開が各施設の医療現場まで波及し、臨床検査技師の業務実践が定着したとは言いがたい。この状態を検証するとともに今までの成果や実績を基に、現場での展開を加速しなければならない。その手段として、今年度から事業の執行にあたり、課題となっている優先項目を設定し、課題解決を前面に出した技師会活動を進めることとした。

優先項目として取り上げたものは、

- ① 医療法等改正に伴う精度管理への対応
- ② 卒前教育制度の見直し
- ③ 病棟業務への参画と検体採取への取り組み強化
- ④ 日臨技と都道府県技師会の連携強化に向けた整備（定款・諸規程の検討）
- ⑤ 日臨技認定技師制度と生涯教育制度の連携
- ⑥ 検査部門へのAI導入を前提に、今後のあり方、方向性の検証

の6項目であり、平成30・31年度日臨技執行部の命題と言えるものであり、会員にとっても、臨床検査技師として仕事や生きがいに繋がる重要な事項が含まれている。更に、国が進める「骨太の改革2018」においては、少子高齢化が進む中、持続的な成長を実現していくために、人生100年時代を見据えて一人ひとりの人材の質を高める「人づくり革命」と「生産性革命」により、IoT／AIの導入など第4次産業革命の社会実証によるSociety5.0の実現を目指している。これからの社会が大きく変革していく中で、私たちの立場も変化していく。その変革をしっかりと捉え、それに応える臨床検査技師が必要である。皆さんと共に情報を共有し、明日の臨床検査、臨床検査技師を考えてみたい。

「医療法等の一部改正における 日臨技の対応について」

滝野 寿

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 専務理事



「医療法等の一部を改正する法律」が施行され、医療機関、登録衛生検査所等において実施される検体検査の精度の確保の基盤が構築できた。

今回、改正された改正法は、平成29年6月7日 参議院本会議で成立し、医療機関等に検体検査の「精度管理」が創設され、医療法施行規則等の関係省令が平成30年7月27日公布され、平成30年12月1日には、法律・省令施行される。この医療法施行規則によって、医療機関には「検査の精度の確保に関する責任者」（以下、精度管理責任者という）の設置と、標準作業書、作業日誌並びに管理台帳の常備が義務付けられた。また、内部精度管理の実施、外部精度管理調査の受検を行うこと、並びに適切な研修の実施、人材育成に努めることが求められた。また、同時に臨床検査技師等に関する法律施行規則改正によって、現行の検体検査の分類は、臨床検査技師等に関する法律の改正によって、遺伝子検査分野のような新たな検査技術に応じ、柔軟かつ迅速に分類やそれに伴う精度管理基準を整備することとなった。当会としては、当面の法改正の対応として、精度管理責任者育成コース（eラーニングによる研修）の開始、各種標準作業書・日誌等の作成支援、および精度管理参加施設の拡充への準備を進めているところである。

当会は、50年以上長きにわたり、日臨技精度管理事業として外部精度管理事業を実施してきた。今や全国4,100を超える施設が参加している。今回の法改正によって参加施設数および施設分野種の拡大も予測される。今後、さらに診療、施設の実情に応じた精度管理の確保が求められることが想定されるため、当会としても現状の精度保証施設認証制度のグレードアップが緊急の課題となっている。特に、従来の精度管理調査対象であった「検体処理」→「検査・分析」→「検査値の点検」までの調査範囲から、「検体採取」から「結果報告」までの検査工程の全てを範囲とした総合的精度管理、さらには検査前後における「検査説明」を加えた精度保証に組織マネジメントを加えた検査室の品質保証を念頭にいたれた認証制度とできるよう、「品質保証認証施設制度（仮称）」の確立を急いでいるところである。本認証を取得することにより、国民に対して「安心」と「信頼」を与えることができると考えており、法改正の推移を単に見守るのではなく、積極的に精度保証施設認証を取得するよう希望するところである。

arkray

グリコヘモグロビン分析装置

ADAMS A1c

アダムスA1c HA-8190V | HbA1c

HbA1c検査の New Standard

2モード搭載、さらに時間短縮

Fast modeは24秒／検体、

Variant mode(変異ヘモグロビンの分離・検出)は
58秒／検体

より正確なHbA1c測定の実現

HbF補正機能搭載

ユーザビリティ向上

採血管の整列作業不要

カスタムラックによる使い分け

タッチパネル画面



※本商品は积水メディカル株式会社との共同開発品です。

お問い合わせ先

アークレイ マーケティング株式会社

東京本社

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-20-20大雅ビル4F

TEL.050-5527-7700(代)

アークレイ株式会社

DIAGNOSTICS

Alinity + AlinIQ

変化し続ける医療環境の中で
生まれるお客様の課題に、
Alinity・AlinIQという
トータルソリューションで貢献します。



一般医療機器 尿化学分析装置 (特定保守管理医療機器)
全自動尿分析装置 US-3500
製造販売届出番号 26B3X00001000011



全自動尿分析装置

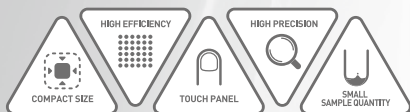
US-3500

FULLY AUTOMATED URINE ANALYZER

More Accurate, More Efficient

更なる使いやすさを求めて

- コンパクトなボディを実現
- 大量検体に対応
- 使いやすいカラー画面
- より高精度な測定を実現



ご使用の際は、本装置に添付の「添付文書」および「取扱説明書」を必ずご参照ください。
なお、改良・外観については予告なしに変更することがございますので予めご了承ください。

販売元  栄研化学株式会社
〒110-8408 東京都台東区台東4丁目19番9号

製造販売元 テラメックス株式会社
〒612-8412 京都市伏見区竹田中川原町354

0075 BK
2018年6月作成

ビリルビン測定用試薬

総ビリルビン測定用試薬

イアトロLQ T-BIL II

届出番号:13A2X10027000011

直接ビリルビン測定用試薬

イアトロLQ D-BIL(A)

承認番号:21200AMZ00551000

HPLC法との一致率は良好です。

→ α , β , γ , δ の各分画物とよく一致します。

標準物質として、SRM916をベースに値付けしています。

→ 標準品は、合成抱合ビリルビン型のジタウロビリルビンを用いることで、T-BIL、D-BIL 共通かつ同じ値で使用できます。

イアトロLQ D-BIL(A)は、血清、血漿中の抱合ビリルビンを特異的に分別定量できます。

→ 化学酸化法や従来の酵素法試薬の直接ビリルビン試薬では、抱合ビリルビンに加え非抱合や δ ビリルビンの一部を測り込む試薬です。

新生児黄疸、溶血性貧血など非抱合ビリルビンが優勢な疾患と肝胆系疾患との区別が可能になります。

→ 直接ビリルビンとして、新生児黄疸などの高非抱合ビリルビンを測定した場合、異常評価がなくなり、胆管道疾患など抱合ビリルビンが増加する疾患との区別が容易になります。

イアトロLQ D-BIL(A)は、 δ ビリルビンとほとんど反応しない試薬のため、肝・胆道障害などの回復状態をより鋭敏に把握できます。

→ δ ビリルビンは、血中で抱合ビリルビンとアルブミンが強く結合して存在しているため、半減期が約2週間と長く、肝・胆道障害の程度を反映しないとされています。

イアトロLQ T-BIL II

製造販売元



株式会社LSIメディエンス

(本社) 〒101-8517 東京都千代田区内神田一丁目13番4号
お問い合わせ先 インフォメーション TEL.03-5994-2516(平日 9:00~17:45)
URL <http://www.medience.co.jp/>

技術開発元



イアトロLQ D-BIL(A)

製造販売元



NIPRO

販売元



株式会社LSIメディエンス

(本社) 〒101-8517 東京都千代田区内神田一丁目13番4号
お問い合わせ先 インフォメーション TEL.03-5994-2516(平日 9:00~17:45)
URL <http://www.medience.co.jp/>



臨床検査の「信頼」と「安全」を求めて 私たちの目指す未来は 検査室の声とともにあります。

1939年の会社設立以来、私たちは検査室の声と共に歩んできました。

1947年 抗D血清上市

1989年 世界初のC型肝炎ウイルス抗体検出キット上市

1997年 全自動輸血検査システム オート・オートビュー®上市

2009年 ウォーターレスでの免疫生化学統合型システム、ビトロス®5600上市

2014年 全自動輸血検査システム オート・ビジョン®上市

2015年 全自動輸血検査システム オート・ビジョン® Max上市



これまで積み重ねてきた技術と信頼を基に、これからも検査室の期待に応える提案を続けてまいります。



全自動輸血検査システム

ORTHOVISION

オート・ビジョン® 届出番号 13B3X10182000013



全自動生化学測定システム

VITROS[®] 4600

Chemistry I ビトロス®4600 届出番号 13B3X10182000011



全自動免疫生化学統合システム

VITROS[®] 5600

Immunoassay ビトロス®5600II 届出番号 13B3X10182000016

ルミバースアレスト® オート® HCV
ルミバース® II オート® HCV
オート® クリアクエスター® HCV Ab
オート® HCV Ab LPIA テスト皿

承認番号: 21700AMZ007160001 (製造販売元: 富士レボイ製)
承認番号: 20770AMZ002200001 (製造販売元: 富士レボイ製)
承認番号: 21000AMZ00807000
承認番号: 21000AMZ00828000

オート・クリニカル・ダイアグノスティクス 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー

お客様サポートセンター Tel.0120-03-6527

URL www.OrthoClinicalDiagnostics.com

©Ortho Clinical Diagnostics 2017 79-1G7

Ortho Clinical Diagnostics

Canon

New



信頼性の向上、ランニングコストの低減、
さらに磨きをかけて生まれ変わりました。

- ❖ HbA1c測定ユニット(自動前処理機能付き) *オプション
- ❖ 最終反応液量85 μ Lからの測光が可能
- ❖ リモートメンテナンスで安心サポート



臨床化学自動分析装置

AccuteTM RX

臨床化学自動分析装置 Accute RX TBA-400FR
製造販売届出番号: 09B1X00003000083

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 <https://jp.medical.canon>

東芝メディカルシステムズ株式会社は、2018年1月に「キヤノンメディカルシステムズ株式会社」へ社名変更いたしました。

Made For life

風疹ウイルス抗体キット

ランピア ラテックス RUBELLA

風疹スクリーニング検査 を自動化しませんか？

全自動

汎用自動分析装置で使用可能です。
煩雑な操作は不要で判定者による差が出ません。

迅速

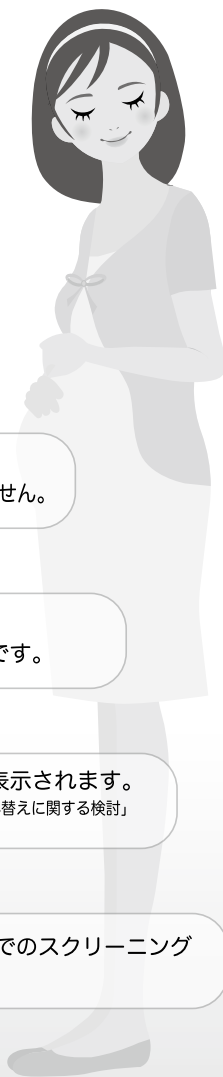
約10分で結果が得られます。
短時間で大量検体の処理が可能です。

互換性

結果は国際単位(IU/mL)で表示されます。
※「HI価と国際単位(IU/mL)の抗体価読み替えに関する検討」
(国立感染症研究所)が参照可能です

経済性

検査コストが低く健診でのスクリーニング
検査に最適です。



体外診断用医薬品

製造販売承認番号 21700AMZ00817000



自動分析装置用試薬
汎用検査用亜鉛キット

アキュラスオート Zn

臨床的意義

亜鉛 (Zn) はDNAポリメラーゼを始めとする100種類以上の酵素に含まれ、タンパク質合成、ホルモン活性発現など、正常な生命維持に不可欠な微量元素です。発生・成長、組織の修復、骨の維持、生殖・感覚・食欲・免疫機能など生体内の様々な機能が亜鉛に依存されて維持されており、亜鉛欠乏の検出は疾患の治療に結びつく重要な情報の一つとなります。

亜鉛欠乏の症状：味覚・嗅覚障害、食欲低下、皮膚炎、脱毛症、創傷治癒の遅延、気力・活力低下 など

アキュラスオート Zn の特長

- ＊ 血清、血漿および尿中の亜鉛濃度を測定できます
- ＊ 検体の前処理を必要としません
- ＊ 原子吸光法との相関が良好です



■ 包装単位 ■

統一商品コード	品名	識別記号	規格	統一商品コード	品名	規格
＜別売品＞						
326054268	アキュラスオート Zn			326052936	Zn標準液 (200 μ g/dL)	10mL $\times$ 1
326054275	R－Ⅰ 緩衝液 R－Ⅱ 呈色液		12mL $\times$ 2 5.5mL $\times$ 2	326055722	亜鉛コントロール (100 μ g/dL)	10mL $\times$ 1
326062942	アキュラスオート Zn			＊「R－Ⅰ 緩衝液」、「R－Ⅱ 呈色液」は別売です。 但し、識別記号 HLS、(55) はセット規格です。		
	R－Ⅰ 緩衝液 R－Ⅱ 呈色液	HLS	28.6mL $\times$ 2 12.2mL $\times$ 2			
	アキュラスオート Zn					
326062478	R－Ⅰ 緩衝液 R－Ⅱ 呈色液	(55)	20mL $\times$ 2 9.5mL $\times$ 2			

製造販売元  株式会社シノテスト

神奈川県相模原市南区大野台 4-1-93
<http://www.shino-test.co.jp>

《問い合わせ先》

株式会社シノテスト カスタマーサポート

TEL 0120-66-1141 FAX 042-753-1892

亜鉛を自動分析装置で測定しませんか？

オーバーキャップタイプ

インセパック®II-D インセパック®II-ST インセパック®II-W

進
化
し
つ
づ
け
る
採
血
管

Safety
Functionality

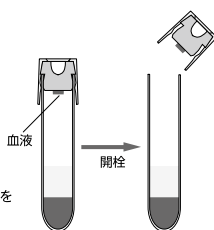
安全性、機能性、使いやすさを追求。

ISO、JIS規格に適合した安全設計

- 血液飛散による感染リスクを抑制します。
- 血液付着部分に触れるリスクを抑制します。

オーバーキャップ構造のため開栓時、ゴム栓についた血液の飛散を抑制でき、手指に接触する危険性を低くできます。また検体が付着した部分に指が触れにくくなっています。

深くくぼみにより、
抜針後の血液付着を
防止します。



自動顕微鏡+血液細胞分類装置

CELLAVISION® DM9600



人工知能により末梢血と体腔液の塗抹標本の 目視分類を自動化

- 末梢血では骨髄芽球など12種類の白血球と5種類の非白血球に、そして、破碎赤血球、球状赤血球など赤血球を21種類に自動分類、細胞毎にソーティングします
- 体腔液では5種類の白血球と2種類の非白血球に自動分類、集細胞遠心機等で作成した標本全体を100倍と500倍のデジタル画像として表示します

CELLAVISION 

セラビジョン・ジャパン株式会社

〒220-0004 横浜市区北幸 1-11-5 相鉄KSビル9階

Tel. 045-287-0638 Fax. 045-287-0801

www.cellavision.com



Become best practice in cell morphology

シアル化糖鎖抗原KL-6キット(ラテックス免疫比濁法による)

LASAY オート KL-6

● 間質性肺炎の病態把握、治療経過観察に使用されます。

● 肺線維症の診断に使用されます。

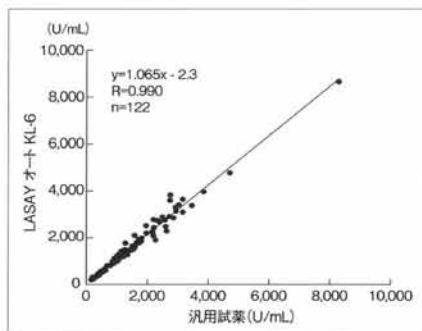
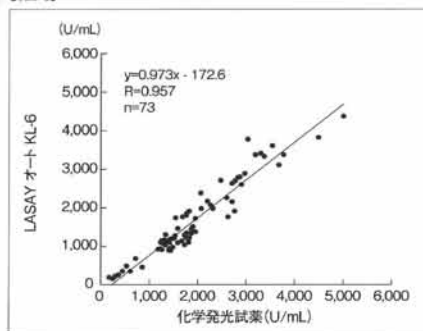
● 感度特異度に優れています*。 *参考文献 Am. J. Respir. Crit. Care. Med. 165. 378-381,2002

特長

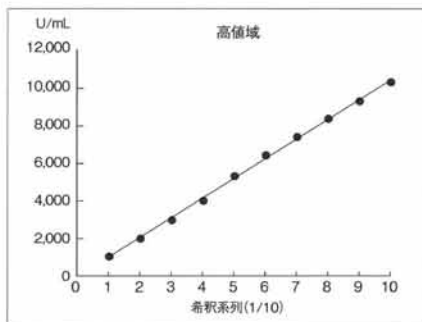
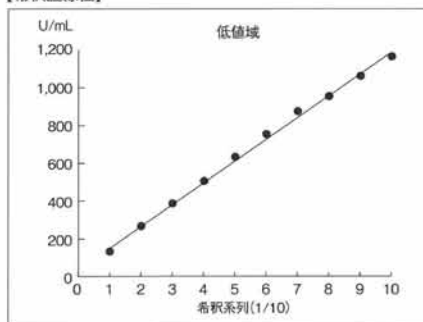
1. 化学発光試薬と高い相関性を示します。
2. 広範囲の測定が可能です(70~10,000U/mL)。

参考データ(日立7180形自動分析装置による自社実施例)

【相関】



【希釈直線性】



肝臓の線維化進展の診断の補助に

オートタキシンキット

体外診断用医薬品

承認番号 22900EZ00022000

Eテスト「TOSOH」Ⅱ（オートタキシン）

特長

- ✔ 簡便・迅速 結果報告約20分
- ✔ 肝線維化の進展度を反映
肝線維化早期から血中濃度上昇
- ✔ 運動、食事、腎機能などの影響小
- ✔ AIA装置各機種で同じ試薬を使用可能



東ソー株式会社
バイオサイエンス事業部

東京本社営業部 ☎(03)5427-5181 〒105-8623 東京都港区芝3-8-2
大阪支店バイオサイエンスG ☎(06)6209-1948 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9
名古屋支店バイオサイエンスG ☎(052)211-5730 〒460-0008 名古屋市中区栄1-2-7
福岡支店 ☎(092)781-0481 〒810-0001 福岡市中央区天神1-13-2
仙台支店 ☎(022)266-2341 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1
カスタマーサポートセンター ☎(0467)76-5384 〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2743-1
ホームページ <http://www.diagnostics.jp.tosohbioscience.com/>

Nittobo



体外診断用医薬品

Changing the life & health care

汎用自動分析装置用 IgG4測定試薬

N-アッセイ LA IgG4 ニットーボー

- 生化学汎用自動分析装置で使用可能な試薬です。
- モノクローナル抗体を使用し、IgG4を特異的に測定できる試薬です。
- 質量分析計を用い、科学的な根拠に基づいた値付けを行っています。
- IgG4が高濃度域でも偽低値を示さない測定法を採用し、500mg/dLまで測定可能です。

製造販売元 ニットーボーメディカル株式会社 〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字塩島1番地

お問い合わせ先 ニットーボーメディカル株式会社 〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目4番地1 麹町大通りビル7階
TEL: 03-4582-5420 FAX: 03-3238-4591

真空密封型採血管

ネオチューブ®

急速凝固用(RC-ST)

医療機器認証番号 219AABZX00154000



凝固時間 約3分 (当社比)
迅速検査に最適。

ネオチューブRC-ST の特長

- 凝固時間 **約3分** を実現(当社従来品比マイナス2分)することで大幅に検査の所要時間を短縮。
- RC-Sタイプの急速凝固剤トロンビン、トロンビン様酵素に、凝固促進剤セライトを追加することによってトリプル凝固促進効果を発揮、採血後の大幅な凝固時間の短縮、遠心分離後のフィブリン析出を防止。
- 検査の所要時間(Turn Around Time)を大幅に短縮することで短時間で検査結果報告が可能。

BioMajesty™ | マイクロポリウムテクノロジー、 ハイスピードが検体検査を変える



限らない“ゼロ”への挑戦
<究極>

BioMajesty™ ZERO シリーズ NEW JCA-ZS050

1,200 テスト/時 (ISE 600 テスト/時)

製造販売届出番号: 13B3X00100000002

NEW



JCA-BM6010 G

800 テスト/時 (ISE 600 テスト/時)

HbA1c測定を自動化 (オプション)

製造販売届出番号: 13B3X00100000001



JCA-BM6050

1,200 テスト/時 (ISE 600 テスト/時)

製造販売届出番号: 13B3X00100000001



JCA-BM6070

1,800 テスト/時 (ISE 600 テスト/時)

製造販売届出番号: 13B3X00100000001



JCA-BM9130

1,200 テスト/時 (ISE 600 テスト/時)

自動溶血機構によりHbA1c測定を自動化

製造販売届出番号: 13B3X00100000001



JCA-BM8000 G series

2,400~7,200 テスト/時
(+ ISE Max1,800 テスト/時)

製造販売届出番号: 13B3X00100000001

一般的名称: ディスクリット方式臨床化学自動分析装置 一般医療機器 (特定保守管理医療機器 該当、設置管理医療機器 該当)

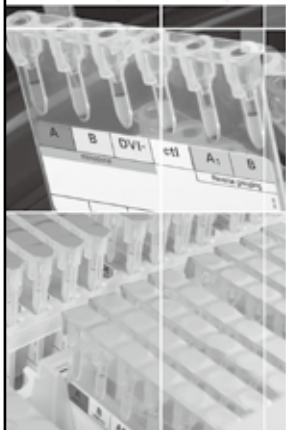
JEOL  日本電子株式会社

本社・昭島製作所 〒196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2 TEL: (042) 543-1111 (大代表) FAX: (042) 546-3353
www.jeol.co.jp ISO 13485 認証取得

JEOLグループは、「理科学・計測機器」「産業機器」「医用機器」の3つの事業ドメインにより事業を行っております。
「理科学・計測機器事業」電子光学機器・分析機器・計測検査機器 「産業機器事業」半導体関連機器・産業機器 「医用機器事業」医用機器

Bio-Rad Laboratories ◁ IMMUNOHEMATOLOGY

The Perfect Move



一般医療機器 特定保守管理医療機器
届出番号：13B3X00206000024

ゲルカラム遠心凝集法
カード用全自動輸血検査装置

IH-500

The Complete Solution for Safe Transfusion

— 輸血検査の安全性・信頼性の更なる向上を目指して —

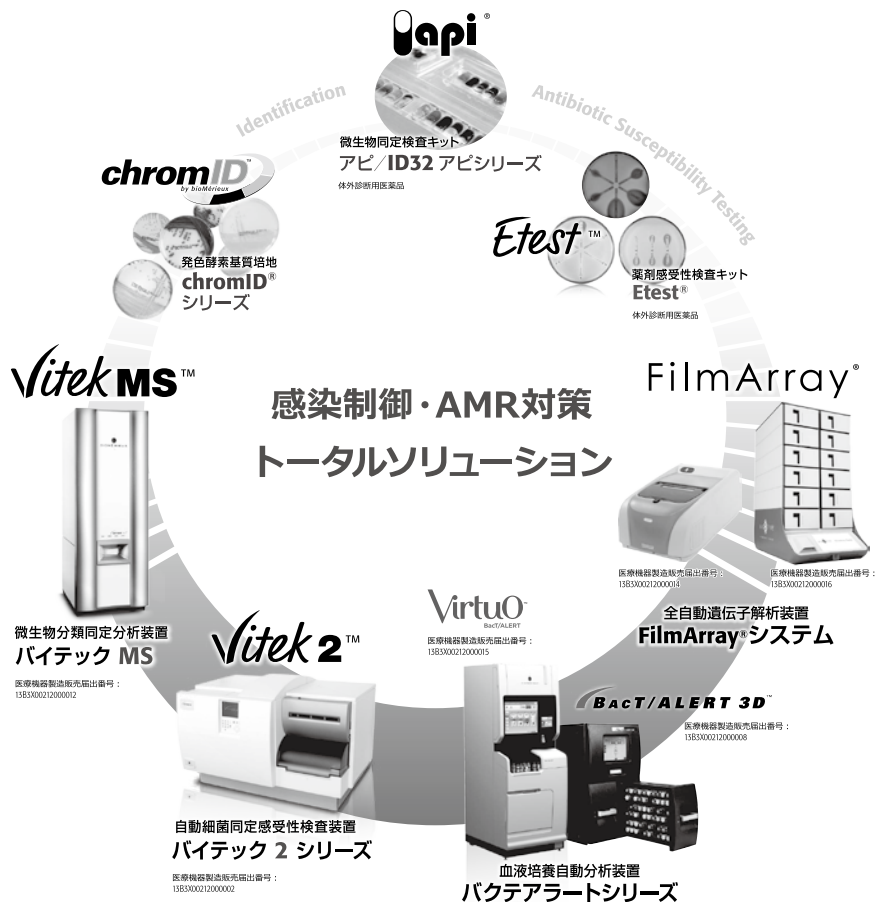
“6軸 ロボットアームテクノロジー”
全世界初、輸血検査領域への応用



BIO-RAD

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー20F
TEL : 03-6361-7070 (代表)



微生物検査において50年以上の歴史をもつバイオメリューは、
微生物の同定および感受性検査における世界的なリーダーです。
バイオメリューでは、マニュアルキット、同定、感受性検査製品、
全自動遺伝子解析製品などを幅広く取り揃えており、
世界中の検査の現場で長く使用されています。

バイオメリューは世界の感染症と戦う
臨床検査のリーディングカンパニーです。

製造販売元

バイオメリュー・ジャパン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目17番7号
赤坂溜池タワー2階

www.biomerieux.co.jp

BIOMÉRIEUX

検査の未来に向けて。

質の高い検査データをより速く。
 それがずっと変わらない私たちの使命。
 日立ハイテックは多彩なラインアップにより、
 検査室のさまざまなニーズにお応えしていきます。

HITACHI

Inspire the Next



日立自動分析装置 LABOSPECT 008 α

製造販売元出荷番号:
08B2X10005000041
本型機は2モジュール構成です。



日立自動分析装置 3500

製造販売元出荷番号:
08B2X10005000042



日立自動分析装置 LABOSPECT 003

製造販売元出荷番号:
08B2X10005001007



日立自動分析装置 LABOSPECT 006

製造販売元出荷番号:
08B2X10005000038



日立自動分析装置 3100

製造販売元出荷番号:
08B2X10005000040



日立自動分析装置 7180形

製造販売元出荷番号:
08B2X10005001001



日立検体検査自動化システム LABOSPECT TS



自動多項目同時遺伝子関連検査システム Verigene®システム

製造販売元出荷番号:
22B3X10009000001



日立臨床検査用分析機器

 株式会社 日立ハイテクノロジーズ

本 社 〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号
 お客様サポートセンター (03) 3504-7211
www.hitachi-hightech.com/jp/science/
 北海道 (札幌) (050) 3139-4994 東北 (仙台) (050) 3139-4985
 中部 (名古屋) (050) 3139-4567 関西 (大阪) (050) 3139-4878
 九 州 (福岡) (050) 3139-4151



製品情報はこちら

全項目反応時間 **10分** を実現

免疫検査は新たなステージへ



その他

感染症

腫瘍
マーカー

甲状腺
関連

高血圧
関連

心疾患
マーカー

プロカルシトニン

特長

- 全項目反応時間 10 分
- サンプル量 10 μ L ~ 35 μ L
- 最大 24 項目ランダムアクセス処理
- 処理能力 180 テスト / 時間
- モノテスト試薬

医療機器届出番号 27B3X00024000015

Accuraseed

自動化学発光酵素免疫分析装置 Accuraseed

【製造販売元】

富士フイルム 和光純薬株式会社

〒540-8605 大阪市中央区道修町三丁目1番2号

【問い合わせ先】

臨床検査薬 カスタマーサポートセンター

Tel: 03-3270-9134 (ダイヤルイン)



検査業務は、生まれ変わる。
驚くほど、スムーズに。

「安心」
というプラス+

「ゆとり」
というプラス+



免疫発光測定装置

LUMIPULSE[®] L2400

医療機器製造販売業届出番号 1363X10001000021

生化学自動分析装置

BioMajesty[™] ZERO

JCA-ZS050

医療機器製造販売業届出番号 1363X00100000002

免疫・生化学連結型分析装置

FUXION⁺

フュージョンプラス

ルミ/リス L2400 + RH100 + JCA-ZS050



製造販売元

富士シロバイオ株式会社

(問い合わせ先)

お客様コールセンター

☎ 0120-292-832

3H

High Speed
High Quality
High Efficiency



「3H」と「3S」で、ハイブリッドにさらなる価値を。

生化学と免疫、ふたつの検査領域をハイブリッドで測定するコバス 8000に、免疫測定用モジュール「e 801」が登場します。独自の「3Hコンセプト」と試薬の「3Sコンセプト」により、300テスト/時の処理能力と最短で9分*の迅速測定を可能に。これにより、生化学と免疫の同時報告も可能になりました。8000コアを備え、自在な組み合わせを実現するロシュのハイブリッドが、検査室に新たな価値をもたらし、より質の高い医療の提供に貢献します。

*多くの項目は18分、一部の項目は27分。

Slim
Smart
Sustainable

3S



生化学と免疫の統合型分析装置

「cobas® 8000<702|801>」登場



販売名: コバス 8000 製造販売届出番号: 1381X00201000062



ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-2-70
カスタマーソリューションセンター ☎0120-600-152 <http://www.roche-diagnostics.jp>

平成30年度日臨技九州支部医学検査学会
(第53回)

発行日 平成30年10月

発行所 平成30年度 日臨技九州支部 医学検査学会
学会長 野中恵美

TEL 090-3601-8830

発行人 学会実行委員長 疋田直

編集 学会事務局

印刷 有限会社 中央印刷

Oita

